



千葉大学医学部同窓会報 第165号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みのほな同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
みのほな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
みのほな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp
HP : http://www.inohana.jp/



年頭の挨拶

みのほな同窓会長 **伊藤 晴夫 (昭39)**

みのほな同窓会の皆様、明けましてお目出度うございます。

昨年のビッグニュースの一つは2020年の夏季五輪・パラリンピックの開催地に東京が選出されたことでした。このことが日本を気分的にも元気づけているようです。

おかげ様で、新みのほな同窓会館も竣工に漕ぎ付けることが出来ました。千葉大学医学部創立135周年記念事業は、日本経済の低

次期千葉大学学長 決まる

千葉大学大学院医学研究院
徳久 剛史 教授



齋藤康学長の任期満了に伴う千葉大学学長選挙が11月28日に施行され、その後開かれた選考委員会で徳久剛史教授(分化制御学)が選出された。任期は平成26年4月1日から3年間。(プロフィールを6面に掲載)

迷に加え、震災後の復興需要による資材・人件費の高騰のため入札に難渋するなど、数々の試練にさらされました。しかし、幸い会員各位を中心とする多くの方々からのご支援、激励により、何とか初期の目的を達成しようとしております。

あらためまして、ここに厚く御礼申し上げます。同窓会館の新築は、合宿やサークルの集まりなどに使用する面で、特に学生からの要望が多かったもので

あります。古くからの懸案でありました、若い人の同窓会離れの歯止めを少しでも役立てられればと思います。また、卒業生のクラス会を同窓会館で開くので予約したいと云うお話も複数お聞きしております。多くの同窓各位に使用して頂ければ幸いです。さらには地域の中心となる大学として市民の皆様にも開放出来ればと考えております。

みのほな同窓会報は全面カラー化し内容も充実してきました。これに加え、オンライン会報も内容の濃いものになっていきます。特に後者にはITに馴染んでいる若い人の積極的な参加を期待しております。

みのほな同窓会では年3回常任理事会を開き、副会長はじめ、会計監査、参与、常任理事の先生方にご尽力いただいております。掲載の写真は、平成25年度第2回常任理事会開

催時(平成25年11月14日)のものですが、みのほな同窓会員の皆様には本年もご健勝にてご活躍されますようお祈り申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



祝 叙勲

瑞宝中綬章 平成25年 秋の叙勲
橘 正道 旭日双光章
(東京大・昭29) 佐々木 守 (昭37)

最終講義

のご案内

分子生体制御学

木村 定雄 教授
日時 平成26年2月12日(水) 午後2時半
場所 医学部附属病院第一講堂(3階)
演題 新しいペプチドホルモンを探し求めて
-Passion lives here-

分化制御学

徳久 剛史 教授
日時 平成26年2月12日(水) 午後4時
場所 医学部附属病院第一講堂(3階)
演題 免疫記憶の形成と維持

医学教育学

田邊 政裕 教授
日時 平成26年2月21日(金) 午後2時半
場所 医学部附属病院第一講堂(3階)
演題 「個人的な体験」から 医師のキャリア・パスを考える

紙面紹介

年頭の挨拶	1	学内情報	19
就任挨拶	2	課外活動団体	20
各地みのほな会	7	雑文雑談	21
クラス会	10	会員から	23
随筆	14	懇談会	27
研修プログラム	14	オンライン会報	28
研修医だより	15	会館設立	30
人事異動	16	編集後記	32
	16		39
	15		31
	14		29
	14		27
	10		24
	7		23
	2		21
	6		19

就任挨拶

東京女子医科大学学長

笠貫 宏 (昭42)



平成25年9月1日付で、東京女子医科大学学長に就任致しました。

私は1967年千葉大学卒業後、東京女子医科大学(TWU)附属日本心臓血管研究所内科に入局しましたが、その後37年間、循環器内科学講座主任教授退任までTWUで学び育んでいただきました。2008年退任後、早稲田大学理工学術院教授として、TWU・早稲田大学先端生命医科学研究施設で、日本初の両大学共同大学院において医療レギュラトリーサイエンスという新しい学問の体系化に取り組んできました。これは21世紀における急速に進歩する科学技術と患者・社会の新たな関係構築するための評価・予測・決断科学です。この過程で私は早稲田大学のみならず

多くの人文社会科学者との共同研究を進め、大学院教育を行いつつ、各官庁の審議会・分科会・委員会の審査会等の活動、国の施策や運用改善に関わってきました。こうした知識と経験を最大に活かして、21世紀における私立医科大学のあるべき姿を求め、TWUの「建学の精神は高い知識・技能と病者をいやす心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し、社会に貢献する女性を創出する。使命は高い人格を陶冶した医療人及び医学・看護学研究者を育成する教育を行う。理念は至誠と愛」という原点を継承していきたいと考えています。

吉岡彌生先生が東京女子医科大学を創立された1900年は女性が医学教育を受けることさえ、困難な時代でした。その後、1世紀に渡り、TWUは本邦唯一の女子医科大学として、女性医師のみならず医学教育において常に先導的役割を果たしてきました。とくに昨年、日本で初めて世界医学教育連盟グローバルスタンダードに基づく外部評価で高い評価を受けています。21世紀に入り、女性医師は増加し、2013年の医師国家試験合格者では女性が32.7%を占めるまでになりました。しかしながら、社会の指導的地位に立つ女性医師は極めて少ないのが現状です。また分野別では産婦人科医、小児科医など女性医師の特性にふさわしい医学教育―初期・後期臨床研修―生涯教育にわたる包括的かつ体系的な教育プログラムを構築し、指導的地位に立つ女性医師の育成が極めて重要となっています。21世紀においてTWUは、女性医学研究者/専門医という指導的地位に立つ女性医師育成を目的とする第2ステージに入ったと私は認識し、日本唯一の女子医科大学として飛躍的な発展をさせてまいります。本学男女共同参画推進局では平成18年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」後、多くの事業を進めています。少子高齢社会の医療においては男女共同参画の重要性はますます増大しています。今後さらに「セーフティネットとしての支援」に加え

て「キャリア形成支援」を国家的レベルで強力に推進したいと思えます。千葉大学においても女性医学生が増えています。TWUは、生涯にわたる女性医師育成において日本のみならず国際的な先導的役割を果たしていきたいと考えています。

東京女子医科大学副学長

吉原 俊 雄 (昭53)



平成25年10月1日付で東京女子医科大学副学長に任命されました。1か月前の9月1日付で、昭和42年卒の笠貫宏先生が学長に就任され、大学内外からその手腕を評価され、また大学の再建、発展に大きな期待を持たれています。このことは、のほな同窓会にとりましても大変重要なユースです。笠貫学長は循環器内科主任教授を経て、東京女子医科大学―早稲田

患者数約71万6千名という日本のトップレベルの大規模な医科大学であり、国際的メデイカルセンターです。附属八千代医療センターは最先端医療施設としてさらに増床をすすめています。病院長(寺井勝教授)をはじめ千葉大学出身の優秀な先生方に支えられています。心から感謝するとともに、母校のますますのご発展をお祈り申し上げます。

大学共同大学院の教授、そして特命教授として活躍され、その間には国の仕事である文部科学省、厚生労働省の多くの委員を委嘱され、数多くの案件に携わって来られました。また、その人脈は広く医学界だけでなく官界、政財界にまで及んでいます。私は笠貫学長の掲げる大学の在り方と今後の改革を達成するため、多くの事項を学ぶこと、24時間体制で取り組むようにと指示を受けています。のほな同窓の名に恥じぬよう大職員、学生、何よりも患者さんの利益のために努力していくつもりです。東京女子医科大学には医

学部、看護学部他数多くの施設が存在しており、本院だけで1423床、1日外来患者数4200人前後、医師905名で、東医療センターは495床、外来患者数1400人、八千代医療センターは357床ですが146床増床予定となっております。大学全体では計2400床以上になる巨大な組織ですが、それ故の問題も山積しています。千葉県の八千代医療センターでは私と同期の寺井勝先生が院長として奮闘していま

一方で、私は現在のはな同窓会常任理事、同評議員会再構築の任務、東京のはな会勤務医部会長の任を受けています。同窓会役員、会員の先生方のご指導を仰ぎながら千葉大医学部同窓会活性化のため仕事を進めたいと思います。現在、女子医大関連施設には、若手医師から名誉教授まで60人以上ののほな同窓生が職に就いております。皆、女子医大のため、そして千葉の母校の名に恥じぬように努力してまいりたいと思います。

千葉大学医学部附属病院

臨床試験部 教授

花岡 英 紀 (平5)



この度、私は、平成25年9月1日に千葉大学医学部附属病院臨床試験部の教授を拝命するとともに、医学研究院において、臨床試験・治療評価学を担当することとなりました。齋藤康学長、宮崎勝医学部附属病院長、横須賀収医学研究院長始め

多くの方々のご指導のもと、新しい部門を担うことになりました。この場をお借りして、これまでにお世話になりましたのほな同窓会の諸先生に心より感謝申し上げます。

私は平成5年に千葉大学医学部を卒業後、故吉田尚教授が主宰されていた旧内科学第二講座に入局しました。初期臨床研修終了後の平成9年に大学院に入学し、内科学第二講座で免疫アレルギー研究室に所属し、岩

本逸夫助教、高林克日己講師、倉沢和宏助手、中島裕史助手(当時)ら多くの先生の指導のもと膠原病の診療を学びました。

その後、平成12年に国立医薬品食品衛生研究所医薬品医療機器審査センター(現PMDA)に出向をしました。およそ100名の薬学部出身の審査官の中、医師はわずか10名で、上司の藤原康弘先生や山本晴子先生らに御指導いただきました。また、審査官の多数を占めていました厚労省からの出向組のキャリア官僚とも機会を並べて仕事する機会を頂きました。当時の上司と同僚は、現在、厚労省の審議官や課長、課長補佐などを歴任していますが、いまでも元上司や友人として変わらぬ信頼関係の中に、共に仕事をする機会を頂いております。平成15年には大学に帰り、第二内科の助手にしていたくとも、附属病院の旧治験管理・支援センターに所属をいたしました。

さて、臨床試験部とは、平成12年に治験管理・支援センター(院内措置)として発足し、平成17年に臨床試験部として正式に認められた組織です。職員は80名、医師、看護師、薬剤師、検査技師などさまざまな職種で構成されています。企画推進室、プロジェクトリーダー室、モニタリング室、データマネジメント室、医療統計室、試験管理室、RC室、倫理監査室、教育研修室、試験薬調製室などから構成されており、専門職種による臨床試験の推進体制が構築されています。例えば、ある臨床試験のプロジェクトが診療科や研究者から提案されると、プロジェクトチームが構成されます。本学では、臨床研究中核病院として医師主導試験や先進医療などの臨床試験が実施されており、その成果を発信することが求められていきます。診療科、研究者とともに、私どもがその役割の一端を担うことができ、スタッフ一同、患者さんのためになると信じて取り組んでおります。

最後に、私自身は地元の千葉市に子供の頃より住んでおり、地元の公立小中学校を経て本学に入学をしました。かつて、地元で開業をしていました曾祖父(花岡和夫)と祖父(杉山三郎)は、共に第二内科に入局をし、本窓会にお世話になったと聞いています。私自身、未熟者ですが、本学に貢献できるように、また本会

にも貢献できるように努力して参りたいと考えております。

平成25年10月1日付で、関根吉統前教授の後任として、千葉大学社会精神保健教育研究センター治療・社会復帰支援研究部門特任教授を拝命いたしました。千葉大学大学院医学研究科精神医学の佐藤甫夫名誉教授、伊豫雅臣教授をはじめ、ものはな同窓会の諸先生方には、これまでたくさんのご指導、ご高配を賜ってまいりました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

千葉大学社会精神保健教育研究センター 治療・社会復帰支援研究部門 特任教授 渡 邊 博 幸 (平4)



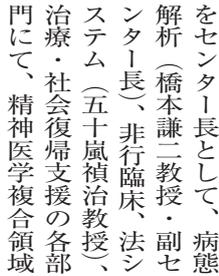
私は、平成4年に千葉大学医学部を卒業後、佐藤甫夫教授が主宰する千葉大学医学部精神医学教室に入局いたしました。千葉大学医学部附属病院精神科神経科(現在の精神神経科)にて研修を行い、以降、国保松戸市立病院での神経内科・麻

酔科研修を経て、平成5年から1年間、深谷赤十字病院精神心療科の島上實部長からの薫陶を賜りました。その後、平成6〜9年度まで斉藤隆教授(現理化学研究所統合生命医科学研究センター・副センター長)が主宰する千葉大学医学部附属高次機能制御研究センター・遺伝子情報分野で、遺伝子解析、分子生物学的研究手法の手ほどきを賜り、

三つ関連脂質代謝酵素の研究で学位を取得いたしました。平成10年度から千葉大学精神科助手・講師を経て、平成21年1月より国保旭中央病院神経精神科・地域精神医療推進部長として異動し、吉田象二院長(現同院管理者)、川副泰成神経精神科部長(現神奈川県立精神医療センターせりがや病院長)をはじめと多くの方々のご支援をいただき、精神科地域移行・定着、アウトリーチシステム構築、多職種協働モデル構築を行い、平成23年度より、再び

千葉大学精神医学准教授を務めて参りました。千葉大学社会精神保健教育研究センターは、平成17年4月より、司法精神保健に関する教育・研究を行うために新設されました。現在、伊豫雅臣精神医学教授をセンター長として、病態解析(橋本謙二教授・副センター長)、非行臨床、法システム(五十嵐慎治教授)、治療・社会復帰支援の各部門にて、精神医学複合領域におけるトランスレーショ

福島県立医科大学会津医療センター 漢方医学講座 教授 三 瀧 忠 道 (昭53)



平成25年5月12日、福島県立医科大学会津医療センターが発足し、漢方医学講座が開講されました。私は23年5月より県立会津総合病院において準備室教授として業務にあたり、正式に講座主宰の任を命ぜられました。会津医療センターは、福

ナル研究を展開しております。私が担当する治療・社会復帰支援研究部門では、触法精神障害者の治療および社会支援についての調査・解析・開発を行うとともに、それらの成果物を、重症精神疾患の治療・社会支援に臨床実装するため努力したいと思っております。千葉大学医学部には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

鳥県立会津総合病院と喜多方病院を統合して設立されました。全国で2番目の広さを持つ福島県の、医療過疎地域の多い西半分の会津地区における地域医療を担う使命を持ち、東洋医学を重視する方針が含まれています。ただし東洋医学の中心は日本の伝統医学です。漢方医学と名称を変更しました。

漢方医学は、紀元前後に集大成された古代中国医学が日本に伝来し、約1500年をかけて日本化された、我が国の伝統医学です。湯

液(とうえき)薬物治療)と鍼灸がその両輪で、治療学が重視される医学です。地域密着のプライマリケアに大いに役立ち、また西洋医学を補完する面からも患者満足度の向上につながります。千葉大学東洋医学研究会出身の私にとって、今回のご縁は有難く光栄なことと感じております。

当講座は湯液と鍼灸を中心に、臨床を軸に教育と研究が3本柱です。会津医療センターは講座群と共に、附属病院、附属研究所から構成されています。漢方医学講座には現在、私と准教授2名(1名は鍼灸師)、講師1名、助教1名、助手2名(薬剤師、鍼灸師各1名)の合計7名の教員が所属しています。

附属病院は許可病床数226で23の診療科を有し、湯液部門である漢方内科は外来から病棟まで漢方本来の生薬を重視した診療を行い、病院薬剤部には生薬調剤室や煎じ室があります。鍼灸部門の漢方外科は入院患者が主な診療対象で、両部門で漢方医学センターを構成しています。附属研究所の漢方医学研究室には実験室として鍼灸部があり、鍼灸院として外来診療を担っています。

漢方医学教育について、今年度は福島県立医大医学部2年次に4コマを使って肌で感じさせ、3年次の4コマで理論を教え、4年次の8コマに具体的な方剤や手技、臨床の実際などを盛り込みました。来年度は鍼灸医学を中心にさらに時間数を増やし、全部で24コマの講義を計画しています。

20として、5年次は2、3人ずつが当センターの内科系実習の中で2日間必修、6年次は2、4週間の選択で漢方を実習しています。卒後は初期・後期研修、総合医、専門医、大学教官などに合わせた漢方教育を目的として活動を開始しました。

会津は薬用人参の一大産地でしたが、現在では絶滅が危惧される状況です。会津人参の種苗生産から流通までを通じた復興に取り組み、国内の生薬生産振興に向けた検討を実施しています。

漢方医学の正しい発展を図り、西洋医学と融和した新たな日本型の医療体制を構築して、会津からの発信を目指しています。後進の参加に期待すると共に、同窓の皆様のご支援をお願いいたします。

東京慈恵会医科大学大学院 医学研究科

緩和医療学 教授
腫瘍センター緩和ケア室長
麻酔学講座 教授

下山 直人 (昭57)



この度、平成25年6月1日付で、東京慈恵会医科大大学院医学研究科緩和医療学教授に就任いたしましたので、ご報告いたします。すでに2月1日付で前任地の東京医科大学病院緩和医療部長(教授)より、東京慈恵会医科大大学院麻酔学講座教授に異動しておりますが、本来、私は本邦における緩和医療の発展をめざして研鑽を積んでまいりましたことから、今回、大学院の研究科を担当することとなり非常に光榮に思っております。残りの期間を少しでも多くの緩和医療学博士、緩和医療専門医の養成を行い、日本の緩和医療学の発展に寄与していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。世界での緩和ケアは、Cecily

Summers博士らの聖クリストファー病院から始まり、ホスピス運動は1960年代から現在に至ってもホスピス、緩和ケア病棟の礎として続いています。しかし、現代に普及している緩和ケア(医療)は、おおよそ1980年代に始まりました。WHO(世界保健機構)において、英国のT. W. Cross博士、米国のFoley博士らが中心となって、がん患者の症状緩和に関する方法をまとめWHOががん疼痛治療指針を1986年に発表しました。その頃には本邦でも緩和ケアの普及はすでに厚労省の研究班の形成によって、元埼玉県がんセンター総長(MHO委員)の武田文和先生を中心として始められていました。1987年に武田先生によりWHOがん疼痛治療指針が和訳され、本邦でも緩和ケアの普及が推し進められるようになったと考えられています。そして、それを支え、リードしてきたのが、その当時、

国立がんセンターにいた、るのはな同窓会のメンバーである(故)水口公信先生、平賀一陽先生、横川陽子先生たちでした。私は、水口先生、武田文和先生、Prof. Foleyに師事し、その志を引き継いでいる第2世代の緩和ケア推進者の1人であります。私も水口先生たちと、がん患者の苦痛を緩和するための、モルヒネを中心としたオピオイド製剤の普及活動における困難と戦ってきました。そして、それを基に、現在の緩和ケアの普及活動は、私たちの次の世代に引き継がれようとしています。幸い、緩和ケアの普及の中には、新しいオピオイド製剤の開発によって、現在、モルヒネだけでなく、オキシコドン、フェンタニル、メサドンといった新しいオピオイド製剤が本邦でも使用可能となっております。私は新規のオピオイドのほとんどの治験において医学専門家として、治験総括医師として関わってきております。新しい、鎮痛の質の高い薬剤の開発はこれからも続いています。しかし、残念なことに本邦の多くの緩和ケア医は、アンケート調査以外の研究を推進しているも

のはほとんどおりません。一般病院、在宅医療、ホスピス・緩和ケア病棟の医師は臨床業務に専念すべきことは仕方ないと思いますが、大学に所属する緩和ケア医は、緩和ケアの領域であっても臨床、教育、研究を推し進めたいと思います。まだまだ緩和ケア領域において、がん患者の症状緩和には不十分なことが多く、新たな質の高い方法を開発研究しなければならぬからです。文科省のがんブローエッショナル養成プランは、全国の大学に緩和医療学講座を作ることを推進し、すでに10大学において、緩和医療学講座ができております。しかし、その講座を担っているほとんどの教授の資質は、残念ながらそれ以外の講座の教授の業績基準を大幅に下回っているのが現状です。

のはな同窓会のメンバーには、すでに、本邦の緩和ケアを引っ張っている第3世代の緩和ケア医が育ってきていると思います。本邦の緩和ケアをリードしてきた千葉大学にこそ、緩和ケアの臨床、研究、教育を推進する緩和医療学講座ができることを、切に願っております。どうぞよろしくお願いたします。

東邦大学医学部 臨床検査医学講座(佐倉) 教授

武城 英明 (昭58)



このたびはたいへんお世話になりましたのはな同窓会の先生方に、ご報告と御礼を申し上げる機会を頂戴しましてありがとうございます。平成25年4月1日付けで東邦大学医学部臨床検査医学講座(佐倉)教授を拝命し着任いたしました。このような機会をいただけたのは同窓会の先生方にご指導ご支援を賜ることができたからであり、心より御礼申し上げます。

私は昭和58年に千葉大学を卒業し内科学第二講座に入局し、吉田尚教授のもとで内科研修を受けさせていただきました。その後、診療、研究、教育について広く齋藤康教授(現学長)のご指導を頂戴し、京都大学医学部教室とウィーン大学留学を通して、主に脂質代謝と動脈硬化の研究に携わってきました。平成12年から、ますます佐倉病院が、

東邦大学臨床検査医学(佐倉)は、内科学第二講座の先輩でいらっしゃる白井厚治教授により創設されました。白井先生のもとで育った多くの研究者は、臨床検査部で診療を行うとともに、院内の基礎研究部門の研究開発部で基礎研究に携わっています。今後、教職員と力を合わせて、医療技術の発展にともない刻々と変わっていく専門診療の礎となる病院検査部門をさらに充実し、患者さんに最善の医療を届けていきたいと思っております。それを支える若い活力のある医師、検査技師を育成していきたいと思っております。

理学部、病院とキャンパスの理学部や薬学部の研究者との結びつきを深める役割を担うことが期待されています。このようなことから、診療体制と教員がさらに充実するとともに、教室が多くのひととの交流の場となることもめざし、大学研究への貢献と研究者の育成を進めていきたいと思

います。最後にありますが、これまでご支援いただきました千葉大学めのはな同窓会の先生方にあらためて御礼申し上げます。どうぞ、これからも引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

日本医科大学大学院医学研究科

生体統御科学 教授

柿沼由彦 (昭63)



このたび平成25年7月より、日本医科大学大学院生体統御科学講座教授として赴任しました。昭和63年卒の柿沼由彦と申します。前任地の高知大学医学部生理学(循環制御学)から異動してきました。

私は、都立西高等学校を卒業後千葉大学医学部へ入学し、昭和最後の63年に卒業後すぐに臨床研修病院で研修を受けました。卒業当時臨床で働くこと以外考えておりませんでしたので、今では、非常に当たり前に

霧困気、けつして個々が籠らず孤立しない環境で、熱意だけが取り柄の研究生活を送りました。なんとも不慣生な生活でしたが、しかし若いからこそ(と聞いても私の場合はすでに30歳をとうに過ぎていましたが)できたことでもあります。そして不思議にもその時つらいと感じた記憶はほとんどありませんでした。好きなことを自由にできること、臨床での疑問が最大のモチベーションとなり、そのことだけを目標として、一心不乱に実験できることがどんなにありがたいことかその時わかつた気がしました。大学院卒業後、筑波大学附属病院循環器内科に勤務後、理化学研究所を経て、高知医科大学、現在の高知大学医学部生理学(旧循環制御学)でちょうど10年間を過ごしました。この高知での経験がさらに研究における価値観を明確にしました。それは、どのような形であっても、基礎医学的知見を現場に、人に役立つ研究に繋げなければという思いです。

高知での仕事は、それぞれ各研究機関で私が学んできたことがまさに融合したものであり、対象分野は、循環器・腎・肝・中枢神経

(特にアストロサイト)という臓器にまでわたり、またキーワードとしては、「エネルギー代謝」「虚血耐性」「ミトコンドリア」「性差」でした。当時の国立大学の流れとして、独法化および大学統合の結果、高知医科大学から高知大学医学部となつたわけですが、高知大学は総合大学ではあるものの、キャンパスは互いに物理的に非常に遠く離れており、キャンパスごとに自己完結しているような形になっていました。したがって、結果としてこじんまりとまとっており、比較的小回りが利く環境でした。唯一難があるとするればそれは、人的資源の少なさです。逆に言えば、大都市のように人材において替えの補充が容易というわけにはいかず、今そこにある人と共に人材を育てるしかないという状況でした。それでもたまたまここでも良い人々との出会いがあり、共同研究を通して多くの面で助けられて今があります。

振り返ってみれば、私がモットーとして行ってきたことといえば、自身が凡庸な人間ゆえに、良い人との出会い(それを縁というのでしょう)に感謝すること、見過ごされた一見過去の話

題を研究テーマとしてこだわりしつこく掘り下げることに、そして出てきたデータの意味を誠実に考えること、以上のようなことくらいしかありません。体内・細胞内にあるさまざまなシステムは、必ず他からの制御を受けています。その制御機構には、おそらくまだ我々が気づいていないものもあります。それらを明らかにし、世の役に立つものにまで具現化していくこと、これが自身の召命と思っております。

たまたま生理学という分野で現在の立場になったわけですが、ここ日本においては基礎医学、とりわけ生理学という分野は、後継者・学問分野のアイデンティティといった面からも、前途多難なものと感じています。しかし、そういうときこそ、大学を超えた横のつながりを大切に、互助の精神で、あえてつとめて樂觀的視点で、臨みたいと思えます。そして現在の日本医科大学においても良い出会いがあることを願いつつ、地に足のついた仕事をこつこつと行っていきたいと思っております。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

産業医科大学

眼科学 教授

近藤寛之 (昭63)



めのはな同窓会の先生方にはご健勝のことと存じます。

平成25年10月1日付けにて、産業医科大学医学部眼科学の教授を拝命いたしました。昭和63年卒の近藤寛之でございます。

私は千葉大学を卒業後、卒業研修および眼科医としての道を東京の虎の門病院からスタートいたしました。このため、これまで千葉大学の先生方にはなかなかお目にかかる機会が少なく残念に思っております。母校を離れは25年が経過しております。今回このような機会をいただき大変名譽に存じます。編集委員の先生方をはじめ関係の皆様にお礼申し上げます。

膜症や網膜剥離などの手術、さらに未熟児網膜症の網膜剥離の手術治療を専門としていました。そこで私も未熟児網膜症などの小児の網膜疾患や成人の網膜治療を専門といたしました。米国マイアミ大学眼科研究所への留学期間を含めると福岡に在住し20余年となり、わが子も含めすっかり博多の人間となつてしまいました。小児の網膜疾患の治療に携わるうち、小児の網膜剥離の遺伝素因の研究をすることにになり、1999年より2年間九州大学遺伝情報実験施設に在籍し、これより眼科疾患の遺伝子解析の研究を専門の一つとしております。網膜色素変性症の遺伝子診断の研究では、学生時代に教えたいただいた安達恵美子前眼科学教授にお世話になり、先生の退官業績の一番後ろに名前を入れていただくことができました。母校に恩返しをすることができ嬉しかったことを覚えております。2010年より、産業医科大学より准教授として招

聘されました。3年半の勤務の後、今回産業医科大学の眼科教授に選出された次第です。

産業医科大学は1978年に開設した私立の大学です。福岡県北九州市に在し、最寄り駅はJR鹿児島本線の折尾駅です。産業医科大学については、一昨年の東日本大震災による東電の福

島第一原子力発電所へ震災支援活動として医師派遣を行ったことをご存知かもしれません。設立の目的の一つに、産業医の養成があります。産業医とは労働者が健康で快適な作業環境のもとで仕事が行えるよう、専門的立場から指導・助言を行う医師です。眼科分野では視覚を用いた労働(VD

T作業など)や、眼外傷などの研究を行っています。また産業医科大学病院は北九州市で唯一の総合大病院で、この地域での高いレベルの医療を担っています。私の専門は網膜硝子体分野ならびに小児眼科ですが、今後はすべての眼科領域について高い診療技術を提供できるようにしてゆき

たいと思っております。卒業生以外の先生の入局も大歓迎です。もし、北九州で眼科の研修を希望される先生がいらっしゃれば、ぜひご連絡ください。

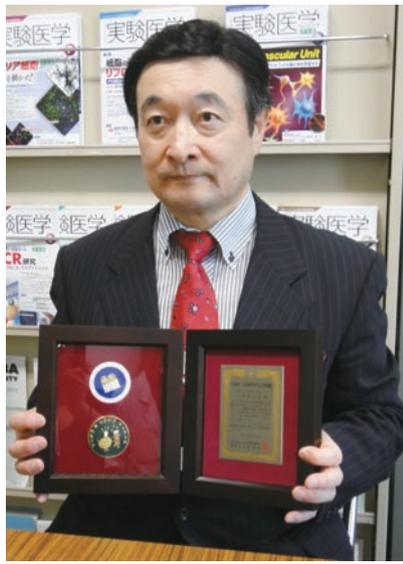
の は な 同 窓 会 の 先 生 方 には今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

病原細菌制御学 野田公俊 教授

「ひらめき☆ときめき」

サイエンス推進賞」受賞

日本学術振興会では、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を継続的に実施し、我が国の将来を担う子どもたちが、科学する心を育み、知的好奇心の向上に大きく貢献した研究者を讃えることが国の将来を担う子どもたちとともに、科学研究費助成事



業による研究成果の積極的な社会・国民への発信を奨励することを目的として、平成25年度より「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を創設し、表彰を行っています。千葉大学からは野田公俊(のたまとし)教授(大学院医学研究院・病原細菌制御学)が表彰されました。

野田教授は平成18年から23年まで6年間連続して、千葉大学医学部に全国の小中高校生を招き、細菌学の講義と実験を通して科学に興味を持ってもらうための活動をして来ており、それが評価されました。平成24年と25年もこの活動を自前で継続しています。これまで野田教授のプロジェクト

に参加した受講者の総数は500名を超えております。参加者には「未来博士号」という修了証書を授与して授の無料出張講演(全国の約350校で実施、受講者数約65,000人)には無い、実験等を体験出来るため人気が高く、両方に参加する子どもたちも多いとの事です。野田教授は今後も無料出張講演だけでなく、講義と実験を通してこの活動も続けて行きたいと述べています。

本学における表彰式は平成25年9月13日(金)に行われ、齋藤康学長から表彰状と記念品が手渡されました。

徳久剛史教授の 次期学長就任を祝して

川平 洋 (平4)

西千葉キャンパスで精力的に活動する医師が平成25年12月5日(木)、西千葉割烹みどりに集まり、徳久剛史教授の次期学長就任を祝し、西千葉医師の会を開催しました。齋藤学長発声のもと、まずは乾杯。徳久教授への自己紹介も兼ねて、自己紹介ならびに各所属部署の現状の報告からはじまりました。保育所問題が導入話題となり、「女性スタッフが快適に働ける環境をどのように整えるか」問題は、千葉大学が旧帝大に引けを取らずに邁進する為の一つの方向性になるだろうと思われました。学部間の意識の違いはあるものの、それを見越した上で学内キャンパス間の疎通をどう図るか是最重要課題であり、その他、学生や職員の健康状態をどのように把握するか、附属小学校、中学校の実態説明、未来の科学者養成講座を通してみたASEAN諸国における我が国の位置付け、特許取得や大学発ベンチャーの可能性など多岐に及ぶ活発な討論が行われ盛会となりました。最

前列左から林秀樹(昭60)、今関文夫(昭54) 齋藤康学長、徳久剛史(昭48)、杉田克生(昭54)、2列目左から川平洋(平4)、潤間勸子(平4)、大溪俊幸(平9)、野村純(佐賀医大・平元) 鈴木昌彦(昭60)



後に参加者で記念撮影を行い、次回の開催を約束し散会となりました。参加者は

- 徳久剛史教授のプロフィール
- 昭和48年3月 千葉大学医学部卒業
- 同 4月 同第二内科入局(研修医)
- 昭和50年4月 千葉大学大学院医学研究科(免疫学専攻)入学
- 昭和53年4月 米国スタンフォード大学医学部留学(昭和55年9月まで)
- 昭和58年10月 ドイツケルン大学附属遺伝学研究所留学(昭和60年9月まで)
- 昭和62年3月 神戸大学教授(医学部・感染免疫分野)昇任
- 平成5年4月 千葉大学教授(医学部)就任
- 平成17年4月 千葉大学大学院医学研究科長・医学部長(平成21年3月まで)
- 平成23年4月 国立大学法人千葉大学理事(研究・国際)

各地のものはな会 だより

ものはな同窓会 会員親睦会

親睦会は六月二十九日の千葉大学ものはな同窓会総会に際して群馬ものはな会からの呼びかけで行われることになり、十月十九日伊香保温泉で開催しました。群馬ものはな会前会長鹿山徳男先生(昭29)、令夫人、千葉ものはな会会長三枝一雄先生(昭32)、令夫人、ものはな同窓会常任理事青木謹先生(昭36)、令夫人、群馬ものはな会会員小林道生先生(昭48)、けい子先生(昭50)、それに鈴木守(昭39)、弓(昭41)と5組のご夫妻参加があったことで、会はとて和やかな雰囲気になりました。伊藤会長もるみ夫人(昭40)とご一緒の予定でありましたが、直前のご都合で一人になり、群馬ものはな会の西村忠雄先生(昭32)もお一人のご参加となりました。

食事に先立って伊藤会長から同窓会館の建設が順調な流れにあること、同窓会館の落成を特に学生が楽しみに待っていることなどの報告があり、一同で喜び合いました。

親睦会の団らんの話題はやはり人生において二度とない青春時代の私達の場であった亥鼻のキャンパスであり、勉強、部活動をはじめとする学生時代の営みでした。これらを再確認しあえる拠点を同窓会が維持していくことの重要性を感じることができました。

親睦会では今はなき恩師の思い出も話題となりました。医学教育の改革が進められ、新しい教育体制を推進する上に、新しいカリキュラムは確かにそれなりの役割をはたしていると思います。しかしそのことが、教員と学生との人間的で密接な関係を疎にしている実情も私が現場で教育に携わっている時、実感したことでありました。卒業したら「どこにどうい先生がいるからその先生についてみよう」という発想よりも、「卒業後研修体制の整備された名の通った大都市にある病院」をまず考える風潮になっていきます。今叫ばれてやまない大学教育のグロバリゼーションの問題を考える時にも「では日本の伝統的大学の教育理念はなにか」という問いがあつてしかるべきです。高等教育の世界基準の適用が日本の大学に求められる今(筆者は群馬大学

長時代に大学基準協会の副会長をつとめていました)日本の大学の教育原点はどこにあるのか、これは常に真剣に問ひかけ続けていかなければならぬ課題です。この問いの答えは、体を張って我々を教えて下さった恩師の姿勢から得られるものと私は思います。自己確立のない儘にグロバリゼーションの掛け声に応じて世界的潮流に入り込むことは危険です。日本に留学する心ある外国の若者も、終局的には「日本の理念、考え方、日本式のやり方」を求めます。

亥鼻という「場」とそこに展開されてきた「ひと」



写真右から
前列：鈴木弓(昭41)、西村忠雄(昭32)、伊藤晴夫(昭39)、鹿山徳男(昭29)、鈴木守(昭39)
後列：小林道生(昭48)、小林けい子(昭50)、鹿山夫人、青木夫人、青木謹(昭36)
(鈴木守)

茨城のものはな会

茨城ものはな会総会は、隔年で水戸とつくば交互に開催されてきました。平成24年11月には水戸京成ホテルで総会を開催しました。特別講演は千葉大学大学院医学研究科腫瘍内科学横須賀教授に「肝疾患診療の最近の動向」をお願いし、多くの会員が集まりました。その後、久しぶりに同窓が筑波大学にご栄転とのことで平成25年6月、2年続きの茨城ものはな会総会をつくば国際会議場で開催しました。

茨城ものはな会の一員になられた筑波大学医学医療系整形外科山崎正志教授(昭58)は、平成24年12月に筑波大学に着任されました。総会では佐藤忠夫会長のご挨拶のあと、山崎先生に特別講演「脊椎・脊髄疾患の診断・治療の最近の進歩」のご講演をいただきました。ご講演は千葉大学整形外科伝統の脊椎・脊髄疾患領域で、基礎的・臨床的研究を基盤に、脊椎の再生をテーマにした壮大な研究領域の講演で新たな治療法確立を目指した研究内容でした。山崎先生のご講演には難治性疾患の治療に果敢に挑戦

する千葉大学のチャレンジ精神がみなぎっていました。大学を離れて久しい会員一同にとつて、新たに迎えた若きパイオニアの活躍がことごと茨城から発信されることの確信を得て、大変喜ばしく、心からの声援を送りました。



今回の茨城ものはな会総会は予定外で、急きょ決定されたものでしたが、いっしょになく多くの会員が出席されました。講演の後には全員で記念撮影をして、懇親会では旧交を温めること

ができました。しかしながら昭和50年代卒以降の会員の出席が少ないことが残念なことでした。

写真右から

- 前列：紅露恒男(昭34)、大木勲(昭38)、福富久之(昭32)、伊藤晴夫(昭39)、山崎正志筑波大学教授(昭58)、佐藤忠夫(昭29)、小形岳三郎(昭33)、岡村隆夫(昭35)、中田義隆(昭36)
- 二列目：横山孝一(昭35)、白石博康(昭36)、吉井與志彦(昭44)、高瀬靖広(昭40)、額賀章好(昭39)、竹島徹(昭41)、工藤典雄(昭41)、深尾立(昭39)
- 三列目：吉井田美子(昭44)、能勢晴美(昭42)、山口邦雄(昭53)、松前孝幸(昭52)、荻原泰祐(昭46)、榎本貴夫(昭47)、中川邦夫(昭44)
- 四列目：石川詔雄(昭47)、宮本敬長(昭50)、仁平武(金沢大・昭58)、伴野悠士(昭45)、武藤高明(昭49)、高梨健治(昭37)
- 最後列：石井伊知郎(昭59)、山口清直(昭57)、小泉準三(昭30)、小山哲夫(昭43)



(石川詔雄)

おのほな同窓会 埼玉県支部

平成25年度埼玉県支部総会は、平成25年8月25日(日)さいたま市の「パレスホテル大宮」で開催され、33名の出席をみました。例年ですと猛暑で厳しいのですが今年に限っては30度に届かない良い意味で拍子抜けの一日となりました。

3時からの総会に続いて2題の学術講演会を開催しました。

講演1は「わが国の医療経済とがん化学療法」と題して東京女子医科大学がんセンター病院部門長、化学療法・緩和ケア科林和彦教授(昭61)に御講演いただきました。先生は御専門の化学療法を例えにして、医学の進歩に伴い医療費が増大している現状を話され、日本経済の減速にかかわらず世界最速の少子高齢化等による社会保障費の確実な急上昇により、日本の医療制度を支えている国民皆保険制度と高額療養費制度や除制度と高額療養費制度や生活保護制度は、手厚い制度だが大きな問題点があることを具体的な数字を上げ説明されました。一方、英国ではNICEが費用対効果の観点から一定額以上の薬剤費は製薬会社が支払うよ

う勧告するといった介入例を紹介されました。最後に世界最高の医療レベルを、最低人員の医療者による献身と医療費レベルで享受している日本国民の医療満足度が低い、というアンケート結果には驚きを禁じえませんでした。

講演2は「肝疾患治療の最近の話題」と題して千葉大学大学院医学研究院長・医学部長、消化器・腎臓内科横須賀収教授(昭50)に御講演いただきました。医学部の現況のお話ではキャンパス整備の面で病棟の耐震化、第2駐車場完成、外来棟・新同窓会館新築中とのこと。臨床研修制度により初期研修医が定員の3割しか集まらず、基礎及び臨床研究の今後が危ういことなどの説明の後、御専門の肝臓の話題ではC型肝炎・B型肝炎・NASH・肝癌についてお話しいただきました。遺伝子レベルの診断や薬剤について最新のデータを示され、特にC型肝炎の治療ではインターフェロン+抗ウイルス薬2剤を12週、続いてインターフェロン+抗ウイルス薬1剤を12週投与後のウイルス消失率が73%と聞いて感嘆しました。更に今後新薬により90%まで引き上げられそうだと



ことでもあります。

続いて出席者全員で記念撮影を行い懇親会に移り、

伊藤敏夫支部長(昭30)挨拶・井上幸万先生(昭27)の乾杯の発声・米寿お祝い

で出席の鈴木忠男先生(昭23)と石井邦夫先生(昭26)

30)、石井邦夫(昭26)、横田俊二(昭30)、山口勝(昭34)

二列目：小川富雄(昭48)、吉川広和(昭40)、伊藤進(昭43)、赤井壽紀(昭43)、五月女直樹(昭49)、上野泉(昭53)、野口哲夫(昭48)、中村勉(昭52)、大友一夫(昭46)

後列：野口貴志(平16)、木村道雄(昭50)、得丸幸夫(昭53)、伊藤俊紀(川崎医大・平12)、小林彰(昭52)、林田和也(昭52)、吉澤卓(昭53)、済陽高穂(昭45)、根岸敬矩(昭39)、渡辺恒家(昭54)、岩本容武(平5)、井坂茂夫(昭51)、木村純(昭49)、植松武史(昭55)、森碧(昭31)

(木村純)

安房のおほな会

平成25年10月25日(金曜日)午後6時45分より、安房のおほな会総会・学術講演会が「たてやま夕日海岸ホテル」に於いて開催されました。今回は、呼吸器内科学教授巽浩一郎先生をお迎えして行われました。

総会は、青木謹会長の挨拶に始まり、渡辺啓治先生より平成24年度会計報告があり、原久弥先生の監査報告が

行われ、無事終了しました。学術講演会は、黒野隆先生の座長で、「中高年のたばこ病(COPD)」と題して、巽浩一郎教授より御講演をいただきました。全員に演題と同名の、先生の著書が配られ、それを見ながら解説していただきました。特に印象的だったのは、喫煙者でも50歳で呼吸機能が落ちていなければ、その後も悪化しにくいとのこと。また、SpO2は安静時で97以上なければ問題ありとのことでした。

講演会終了後、巽先生を囲んで記念撮影を行った後、場所を「波奈」に移し、原久弥先生の「乾杯」の御発声で、情報交換会に移りました。巽先生を中心に、大学の近況やCOPDの話題で盛り上がり、有意義な一日となりました。

写真右から

前列：本多満(昭37)、佐伯陳哉(昭35)、原久彌(昭34)、巽浩一郎(昭54)、青木謹(昭36)、関谷信平(昭38)、水谷正彦(昭52)

後列：武内重樹(北里大・昭53)、黒野隆(東海大・昭59)、伊賀寧(聖マリ医大・平2)、辻博勝(平2)、天野晋(平3)、林宗寛(昭60)、渡辺啓治(昭61)

(辻博勝)



**第14回東京のものはな
耳鼻科医学会**

平成25年8月1日に銀座2丁目のホテルモントレにて第14回東京のものはな耳鼻科医学会が開催されました。今回の勉強会としての講演は自由が丘で開業され、本会の幹事もされている幹事の笠井創先生(昭52)が「扁桃の膿栓と口腔咽頭の異常

感との関係」とその対応について話されました。のどの異常感の原因となり患者さんの訴えが多いわりに解決しにくい病態でもあります。もう一人は東京女子医科大学耳鼻咽喉科の山村幸江講師で、やはり口腔乾燥・味覚外来における「口腔異常感を訴える患者の臨床データ」について、日常診療に役立つ臨床データが示さ

れました。その後、活発な質疑応答がなされました。講演会の後は例年通り笠井幹事と私の司会で懇親会が開かれ、神田敬先生(昭35)からは乾杯の発声やご挨拶をいただき、写真撮影には間に合わなかった駒込病院の先生方をはじめ参加者ほぼ全員から近況報告がなされました。会終了後には有志で2次会へと流れ、さらに盛り上がり楽しい会となりました。出席者の出身大学は様々ですが、卒年順に神田敬(昭35)、森豊(昭37)、林崎勝武(昭44)、堀内正敏(昭45)、猿田敏行(群馬大・昭51)、笠井創(昭52)、工藤典代(大阪大・昭52)、吉原俊雄(昭53)、和田二郎(昭53)、諸田英夫(昭55)、永田博史(昭57)、三浦巧(昭57)、大谷地直樹(昭58)、日野剛(昭58)、加藤雄一(昭58)、野本実(昭58)、中村宏(大阪医大・昭59)、三橋敏雄(昭59)、持田晃(昭59)、伊藤宏文(昭61)、本杉英昭(昭62)、晝間清(平元)、吉田耕(平3)、小林伸宏・紀子夫妻(平5)、武藤博之(福井医大・平6)、留守卓也(平7)、小野健一(平12)、黒川友哉(平23)、あとは駒込病院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍科の先生と、同院で研修

させて頂いている女子医大医局員が多数合同参加となりました。平成25年度は札幌で5月にも開催されたため2回開催となりました。

＊東京女子医科大学耳鼻咽喉科の医局と合同のため、写真の名前は省略させていただきます。
(吉原俊雄)



2013 08 01

**東京女子医科大学
のものはな同窓会**

平成25年10月7日(月)に東京、日本橋近くのイタリア料理店で、平成25年度東京女子医科大学のものはな同窓会が開催されました。幹事は東京女子医科大学整形外科加藤義治主任教授(昭53)でした。本会は、東京女子医科大学本院、東医療センター、八千代医療センターに勤務するのものはな同窓会会員から成っており、会員数は、八千代医療センターの医療練士の先生がリーダーを務めるため毎年変動がありますが、約60名になっています。今年度の出席者は22名でした。会員中、名誉教授と現役教授が28名を占めており、のものはな同窓会会員が東京女子医科大学の重要なポストを担っていることがわかります。中堅の医師であっても本会に集まると、メンバーの中では相当若いほうになっています。

就任されました。学長業務で多忙なため、本会には残念ながら欠席されましたが、のものはな同窓会会員がトップにたれた話題でも、大変盛り上がりました。さらに、吉原俊雄教授(昭53)が副学長に就任されました。また、前年に引き続き寺井勝教授(昭53)は八千代医療センターの院長をされており、東京女子医科大学内でのものはな同窓会全盛期が来たと言っても過言ではない体制になりました。東京女子医科大学のものはな同窓会の会員は千葉大学の各科の人事で個々に動いており、会員数の把握が十分ではありません。今回も、口コミで名簿を刷新しましたが、会直前にも新たな会員の情報が判明しています。本誌をご覧になった東京女子医科大学のものはな同窓会会員の先生がいらっしゃいましたら、ご一報いただければ幸いです。なお、来年度の幹事は、八千代医療センター呼吸器外科の関根康雄教授(昭62)となっております。

写真右から

- 中央前列：平松健司(昭59)、寺井勝(昭53)、中林正雄(昭42)、伊藤達雄(昭42)、塚原高広(平9)
- (村田泰章)



後列…村田泰章(平5)、野村実(昭56)、畑敦(平22)、関根康雄(昭62)、林和彦(昭61)、廣島健三(昭54)、野村馨(昭48)、加藤義治(昭53)、吉原俊雄(昭53)、

渡邊絵里(昭63)、松井英雄(昭55)、木原真紀(平7)、小田秀明(昭57)、杉原茂孝(昭55)、遠藤弘良(昭55)、清田毅(平13)、貞廣智仁(平4)

クラス会

五五会 (昭30)

平成25年10月5日に、我々のクラス会(幹事…加濃、志村、高橋、永野)が帝国ホテルで開催され、出席者は16名、同伴者は4名でした。当然我々は一つずつ年を重ねていますが、前回のクラス会より4名が他界されました。

出席された方の多くは現役を引退され、悠々自適の生活をされている。しかし長年の患者さんを診られ、忙しい方もおられた。因みに、専門別では、外科系10、内科系4、基礎系2であった。我々はすべて、80才を過ぎ、戦争、空襲、戦後の復興を経験している。昔はひもじい食生活を体験した。今の戦後生まれの方は考えられないことであった。

卒業時の専門別の数は分からないが、出席者のなかで外科系の人が多い。外科系の医師は性格が細かい事によくよくよしない方が多いのでは、と思った。奥村康順(順天堂大学名誉教授(昭44))はストレスがあるとNK細胞(腫瘍細胞を殺す)が減る、という説である。スト



レスは発がん率を高める。我々は東京一名古屋のリニアカーは無理としても、2度目の東京オリンピックを見る事を目標にしたい。

二次会は同ホテル最上階のバーで10名以上参加した。今後は伊藤敏夫が幹事長となり、次の再会を楽しみにしている。

写真右から
前列…永野夫人、藤山夫人、

千葉大学医学部五五会 2013.10.5 帝国ホテル

村瀬夫人、中島夫人、永野俊雄、横田俊二、伊谷昭幸、藤山嘉信、伊藤敏夫、村瀬靖

後列…浅見敦、志村昭光、中島和彦、清水良平、中野政雄、秋元駿一、新井多喜男、高橋康、加濃正明

右挿入…滝口光雄 (永野俊雄)



三一会 (昭31)

平成25年10月6日(日)正午より、JR錦糸町駅近くの、東武ホテルレバント東京にて、幹事・松丸信太郎君と小野のもとに開催されました。出席は、会員14名、奥様方2名、都合16名でした。

開会は12時半より、はじめに、全員の記念撮影を済ませ、その後、松丸君の司会に始まり、この1年お亡くなりになった級友2名(水島川和美君、海老原雄一君)を偲び、黙祷を捧げました。次に会務報告を事務局(小野)より報告。現在、会員39名、物故者41名、不詳会員1名。次に、本会の出席者が、年ごとに減少していることから、今後の例会の開催についてアンケート調査をして皆様のご意見をお伺いし、その結果を基に、出席の皆様のご意見を

お聞きして、次のように決定しました。

① 卒後60周年（3年後、2016年）までは、毎年、従来通り開催する。

② それ以後は、連絡を希望する会員のみによる、非公式の有志の会とする。

次に、宴会は、李保文彦君の乾杯の音頭に始まり、和気藹々時間の経つのも忘れ欲談しました。宴半ばに、会員の近況報告、そして、特に今までの人生で、一番印象に残ったことなどを披露して頂き、始めてお聞きするお話もあり、感銘を受けました。午後3時、来年の再会を約し、皆様のいやさかと健康を祈念して、三献の手締めをして閉会しました。

次に、今回の特別企画として、有志による東京スカイツリー見物に出かけました。



写真右から
前列：宇佐美暢久、上原すゞ子、庵原夫人
後列：小野夫人、松丸信太郎、北川定謙、庵原昭一

た。参加者は、庵原・同夫人・上原・宇佐美・北川・松丸・小野・同夫人の8名です。2台のタクシーに分乗して15分後に到着すると、すごい込みようでした。台風24号の影響で、前日は雨模様でしたが、当日は曇り空。350mの展望デッキからは展望が可能でしたが、450mの展望回廊からの展望は、残念ながら、雲の中で、視界不良でした。写真などをとり、夕がた5時解散しました。

写真右から
前列：庵原夫人、山口慶三、上原すゞ子、高澤五郎、北川定謙、神尾鋭、井幡宏、後列：小野夫人、小野清四郎、松丸信太郎、庵原昭一、白井敏雄、加藤繁夫、宇佐美暢久、李保文彦、蟹沢成好

さんろく会 (昭36)

平成25年の「さんろく会」は10月12日(土) 12時~14時、リニューアルした東京ステーションホテルの「鳳凰の間」で開催されました。

開宴に先立ち、この1年間に亡くなられた箕山富夫君、淵上隆君、小越章平君のご冥福を祈って全員で黙祷をしました。

宴会は先ず世話人を代表して野尻君が歓迎の挨拶を行い、今回は47人(会員37人、同伴者10人)という2年前の卒後50周年記念会に並ぶ大勢の参加を得た喜びを伝えました。それには会場としてはほぼ100年に及ぶ歴史的建造物である東京ステーションホテルが選ばれ、地方からのアクセスが良いことも考えられますが、今や全員が後期高齢者の真只中、動けるうちに元気な仲間会っておきたいという思いも大いにあったのではないかと想像されます。

乾杯は、今年「ののはな同窓会」の名譽会員に選ばれた中田義隆君による威勢の良い発声で行われ、当ホテル自慢のフランス料理に一同舌鼓、アルコールも程よく入り、和やかな歓談の輪が広がっていきました。



今回のミニスピーチは、眼科診療の傍ら能芸に打ち込んできた岡田信道君にお願いしました。演題は「能の世界に観る生と死―あの世とこの世を往つたり来たり」で、私達高齢者に訴える魅力的な講演でした。老いの生き方として「目標を持つこと」の大切さが強調され、「老いには老いの華がある」

との世阿弥の感銘深い名言で締めくくられました。最後は豪華なシャンデリアの下がる鳳凰の間の舞台上集まり、いつもカメラマンを務めてくれる愛称「謹ちゃん」青木君が今回も賑やかに記念写真を撮影して、中締めとなりました。

宴会後は、散策希望者26人が、予め配布した地図と

説明資料を基に歴史的建物の間を縫って二重橋へ向かいました。この日の大手町は98年ぶりの観測史上最も遅い真夏日で、31・3度の直射日光を浴びながら汗を拭きふき見事に完踏、そして「おのほりさん」よろしく二重橋前でもう一度記念写真を撮り、別れを借しんで解散しました。

写真右から
前列：宮代道子、栗原稔、山崎夫人、山崎修道、野尻夫人、野尻雅美、田部井夫人、副島訓子、長谷川幸子、野本一夫、三宅伊豫子、川村孝子
二列目：今野夫人、前嶋夫人、前嶋清、藤塚立夫、中田義隆、齋藤利隆、加藤昌義、岡田信道、石下峻一郎、新井一夫、谷合夫人、小野沢夫人、青木夫人
三列目：青木謹、今野昭義、加藤喜市、塚原重雄、近藤省三、関幸雄、

長谷川修司、
松山輝男、福山悦男、田部井徹、白石夫人
最後列：塚原夫人、小池宏之、鈴木光、松本生、栗原正明、吉井逸郎、白石博康、黒田健昭、横山健郎、小野沢君夫、谷合明



(副島訓子、野尻雅美、野本一夫、三宅伊豫子、山崎修道)

道)

昭和44年卒同窓会

昭和44年卒業生同窓会は、伊東市在住の篠原が幹事となり、静岡県伊東市のサザンクロスリゾートで、海の日を中心とした7月13、14日の連休に一泊二日のゆつたりとした日程で行われました。

同窓生は34人参加し、そのうち13人が奥様同伴でしたので、総勢47人の盛会になりました。宴会前の全員集合写真を19時に撮影しましたが、つくば市から遠路ドライブして来られた渡辺孝太郎ご夫妻が三連休の渋滞のためわずかに間に合わず、残念ながら写真に写っておりません。

13日の晩餐は、各自の好みにより和食とイタリアンからの選択としましたが、いずれも伊東の海の幸をメインにした料理でまずまず好評でした。今回酒類は各自ボトルを持ち込んで予算を少なくする方式にしましたが、新潟の金賞に輝いた名酒をはじめ各地の日本酒や焼酎・沖縄の泡盛・ワイン・ウイスキーなどが沢山集まり、飲みきれないほどでした。

会は出席者全員の近況報告で盛り上がりましたが、

さすがアラセブンの集まりらしく、今を盛りと活躍している方や、日々是好日とマイペースで生活している方々に混じり、大病の経験を語られる方が結構多くいらっしやいました。特に同窓会長の西島浩君の20からの生還には、皆から大きな拍手が沸き起こりました。とはいえ44年卒ではこの2年間計報は無く、恒例?の開宴前の黙祷はしないで済みました。

晩餐後の2次会は、カラオケバーとメンバーズラウンジの2箇所に分かれて行いましたが、両方を掛け持ちする方々も多く、深夜を過ぎるまで旧交を温めることができました。

翌日は大変暑い中15名がサザンクロスのコースで4組に分かれてゴルフを楽しみ、渡辺孝太郎君が優勝、2位は奥村康君の奥様紀和子さん、ブービーは中川邦夫君という結果でした。皆さん、自身の年齢による衰えを認めたくないらしく、成績をグリーンの難かしさのせいにしていました。

ゴルフをやらないグループは、美術館巡りとフレンチを楽しむバスツアーに16名が参加しました。伊豆高原のガラス工芸美術館と一碧湖の池田20世紀美術館を

訪れ、作品解説をしてもらいながら、ゆつくりと美術鑑賞を楽しみ、その後オーベルジュレストランというフレンチレストランで、ゆつたりと豪華な昼食を堪能しました。

その他の方々は、それぞれ伊豆半島の観光に出かけ

訪れたようです。

今回の同窓会は、直前まで梅雨が明けるか心配しましたが、暑いとはいえ天候に恵まれ、2日間無事に大きな事故も無く過ごせたことにホッとしています。老人性認知症の始まりなのでしょうか?物忘れが多く、



幹事としてはその後始末が最も大変でした。ともあれ、50人近くのお客様に来ていただき、観光不況に悩む伊東市に多少とも貢献できたかな?と自負しています。

業後41年となりますが、出席者は総勢42名となり、盛大に開催されました。まず、司会は小林弘忠君、大森耕一郎君が行い会の冒頭で、誠に残念ながら本年他界した木口博之君をはじめ、既に他界した同級生への追悼の意を表し黙祷しました。その後の開会の挨拶を小生田畑が務めさせていただきますました。そして、昭和大学名誉教授、総合東京病院形成外科・美容外科センター長の保阪善昭君による『形成外科のルネッサンスと共に40年』の講演が行われました。形成外科医としての軌跡が濃縮された講演となり、形成外科の医療技術の歴史と進歩に大変感銘を受けました。

写真右から
前列：河崎夫人、中林清美、内海夫人、奥村夫人、緒方夫人、浅野夫人、音琴夫人、土川夫人、篠原夫人、中川夫人
二列目：高良宏明、堀江弘、加部恒男、浅野武秀、伊東範行、柴橋哲也、土川秀紀、奥村康、田沢洋一、遠藤晴久、細井湧一
三列目：星山圭敏、河崎純忠、泉屋嘉昭、吉田操、吉田夫人、間山素行、佐久川輝章、篠原義賢、河村弘庸、最後列：西村則之、佐藤政教、西島浩、渡辺義郎、岡崎壮之、坂本建彦、緒方孝平、石川達雄、内海武彦、東山義龍、山本健介、山本夫人、音琴勝、星山夫人、中川邦夫

次に乾杯の挨拶を、山口康一郎君に頂戴し歓談となりました。久々の同窓会開催だったためか最初はどこか遠慮がちだった同級生も、アルコールが回りはじめると共に、両司会者の巧みな進行に誘われ、徐々に懐かしい学生時代の話になり、大いに盛り上がりました。会の半ばを過ぎた辺りから、参加者各自の近況を発表していき、仕事の面では、定年を迎えて悠々自適の毎日を送る者、世代交代で後輩への教育に尽力する者、

まだまだ現役で診療を行っている者等々様々な分野での活躍が見受けられました。概ね近況の報告が終わった頃、現在の千葉大学医学部構内の映像が放映され、医学生として学んでいた当時の思い出と現在を重ね合せ懐旧の情にかられると同時に、卒業生の一人として現在の千葉大学医学部の発展を誇らしく思ったのは、小生だけではないと思います。

楽しい時間は瞬く間に過ぎ、予定の時間を大幅に過ぎてしまいました。最後に浅野さとし君に閉会の挨拶を頂戴し、又の開催を固く誓い散会となりました。その後は、前回と同様に2次会を同ホテル17階のインペリアルラウンジ・アクアにて開催し、30名以上参加致しました。各々が更に旧交を温め、時間が過ぎるのを惜しみつつ閉会となりました。

今回の同窓会が盛会の内々に終えることができたのは、ご参加いただいた皆様のご協力によるもので、心から感謝申し上げます。

写真右から

前列：小林弘忠、竹内英世、浅野さとし、千葉幸恵、島田陽子、大和玲子、大内泰子、川村ひろみ、柳

昭和46年卒同窓会

平成25年8月10日帝國ホテル3階雅錦の間にて、千葉大学医学部昭和46年卒業同窓会が開かれました。卒

橋京子、山室美砂子、杏掛伸二、吉田孝宣
 二列目：大友一夫、佐藤章、荻原奉祐、杉本和夫、青柳一正、牛嶋綱二郎、田畑陽一郎、文隆雄、宮内武彦、長谷川吉則、平野和哉、丹羽有一、大森耕一郎、保阪善昭、山口康一郎

三列目：北野邦孝、鈴木直人、小川正憲、館崎慎一郎、内田朝彦、久田俊和、吉田研、櫻井幸弘、矢端幸夫、保坂瑛一、浜野頼隆、山本勇、長谷川利弘、三科孝夫、結束温
 (田畑陽一郎)



千葉大学医学部 昭和46年卒業同窓会

52会 (昭52)

平成25年9月15日、幕張のホテルザ・マンハッタンにおいて52会総会を開催しました。52会は同期会でありながらも昭和52年卒に限らず、学年を超えた幅広い仲間の集まりです。

これまでは交通の便を考慮して東京で開催していましたが、初めて母校のある千葉市で行うことになりました。台風18号が接近する中、遠方からの参加を含め39名の出席があったことは喜ばしいことです。沖縄在住の今井克己君が飛行機の欠航により欠席されたのは残念なことでした。

乾杯の挨拶は、当日最初に受け付けを済ませた人が行うのが決まりごととなっています。獨協医科大脳外科教授の兵頭明夫君が台湾での学会を1日繰り上げて帰国、受け付け準備前に到着していたものの、挨拶は水戸から参加の松前孝幸君でした。松前君は現役真つ盛りの開業医です。台風の影響による交通機関の乱れから翌日の診療に差し支えることを懸念し、わざわざ車を運転しての参加でした。毎回、参加者一人ひとりの挨拶が時間不足となつて

しまふ反省から、恒例となつている講演会や研究発表は今回は企画しませんでした。

まず、五十嵐辰男君(千葉大学工学研究科教授)から千葉大学の現状報告がありました。千葉大学亥鼻地区は再開発により様変わりしたことをスライドで示しながら紹介。国立大学が研修医のリクルートに苦戦していること、定員55名中9名が初期研修医であることなど、来業する機会が少ない参加者には貴重な報告になったと思います。そして、食堂キスミが現存しているとの話には一同から歓声があがり、1970年代へ回想した気分になりました。

続いて、参加者からの挨拶と近況報告に移りました。久しぶりの懐かしい顔ぶれ、気心の知れた仲間とのよもやま話に会は盛り上がり、それぞれの報告も自ずと長くなっていききました。いくつか紹介します。石橋勇貴君は雪深い会津田島から30年ぶりの参加。過酷な僻地医療の中にあっても逆境に負けない強い使命感を感じました。八千代市医師会長の椎原秀茂君は7年後の東京オリンピックまで仕事を継続するつもりとのこと。千葉労災病院整形

外科の山縣正庸君は腰の手術数は千葉県でトップになるとともに、新病院が完成しさらに症例数を増やしたいと意気軒昂の挨拶。脳外科カテーテル治療の第一人者である兵頭君と並んで外科系のパイオニアといえるでしょう。福島県郡山から参加の今泉照恵君は、東電原発事故以来若者が少なく、研修医も逃げてしまうほどであり、定年はとても考えられないとの窮状を訴えました。大学助教授から最成病院院長に転進した鈴木孝雄君は、11年かけて黒字病院に成し遂げ、地域の中核施設として再生させた手腕を大いに評価されています。話は尽きませんが紙面の都合上割愛します。

いずれの皆さんもまだまだ診療の第一線で、多少疲れた身体にムチをうちながらも懸命に働いていることがよくわかりました。私達はもうしばらく、医療の世界に身を置き、引退はもう少し先であることを実感しました。

二次会に参加できない仲間を考慮して、ひとまず記念撮影となりました。本千葉小児科の安田敏行君が総会中の写真と動画の記録係を引き受けてくれたため、たくさん資料を保存する

ことができず。いずれの機会に紹介したいと考えています。

二次会は同ホテル宴会場708に場所を移しました。話題は困難な症例や学問の相談から始まり、徐々に自らの病気やけがの経緯談、家族特に孫の自慢話、趣味や将来の展望など、次第に

個人の打ち明け話となつていきました。話は尽きず名残惜しくも、すっかり夜もふけ台風が迫っていることを考え、3年後の再会を約束しお開きとなりました。次回開催が東京であれば都内在住の稲田晴生君、遠藤文夫君、小林純君らに尽力いただけるとのこと、心

千葉大学医学部52会
平成25年9月15日



強い限りです。後日、幹事を手伝っていただいた磯辺啓二郎君より、「52会は特別な集まりであり、大成功でよかったです。さらに工夫をこらした企画を練り、今回出席されなかった仲間にも集まりやすい雰囲気作りを考えていこう」とアドバイスがあったことをお知らせし、報告を終えます。

写真右から

前列…宇梶晴康、升田吉雄、石橋勇貴、岡本和美、今泉照恵、古川齋、遠藤文夫、兵頭明夫、安田敏行、湊明、松前孝幸
 二列目…平田豊明、磯辺啓二郎、石出猛史、小林純、山田善重、松岡明、山川久美、山縣正庸、太田義章、宇田川晃一、水谷正彦、村野（水谷）早苗
 三列目…椎原秀茂、菅沢寛健、木村正幸、須田啓一、大西正康、五十嵐辰男、松本明石、鈴木孝雄、田中幹雄、稲田晴生、高橋敏信、川俣泰男、川田崇雄、青柳栄一

(古川齋)



猪之鼻奨学会事務室にて綴る るのほな同窓会館 つれづれの記

公益財団法人 猪之鼻奨学会 会長
るのほな同窓会 副会長

鈴木 信夫 (昭47)

「壊れている個所は、どこも見当たりません。」平成23年3月11日以降の、とある日、木造建屋であるるのほな同窓会館での会話のひとつです。会館の1階にある、猪之鼻奨学会事務室で執務する猪之鼻奨学会事務職員による報告です。東日本大震災により、鉄筋の医学部本館や記念講堂においては、損傷箇所がいくつもあつたにもかかわらずです。

さて、2階建のるのほな同窓会館は、多くの人々にとって、想い出の場ではないでしょうか。私の想い出という点、合宿などでよく利用されている2階大広間です。半世紀ほど前のことでした。2年次の時ででしたでしょうか。クラスの学友らとともに、基礎医学系教授との懇談の場を設けたのです。主テーマは、カリキュラム改革についてです。現在ほど教育改革が叫ばれていなかった時期ゆえ、学生生身として、緊急の課題であるとして取り上げたのです。その成果は別として、

しかしながら、御存じのように、キャンパス風景は一変しております。るのほな同窓会館の周囲は、自動車駐車場へと様変わりしました。キャンパス内における集会可能な木造家屋としては、最後の建造物ですが、余命いくばくもない状況へと転じてきたのです。

実は、冒頭の1階猪之鼻奨学会事務室の隣には、るのほな同窓会報のるのほな学生編集部がありました。授業の合間には三々五々学生編集員がたちより、諸先輩や顧問の先生方に貴重なお話をいただいた次第です。一階には、食堂もあり、眼を転じれば、同窓会館北側には、木造の学生寮があります。また、その学生寮の奥には、街中へと通じる坂道があり、蛇やリスなどに巡り合えたのです。さらには、春の桜花があたり一面を包みこんでくれる季節がめぐります。キャンパス西はずれとはいえ、心にしみる一大拠点だったのです。



るのほな同窓会館正面玄関と猪之鼻奨学会看板

幸運なことに、また、特記すべきこととして、新会館建設の旅路を保障する基金が構築されていたのです。るのほな同窓会の会計上、基金という項目があります。るのほな同窓会組織の構築の過程で、なみなみならぬ御努力をなされてきた諸先生方の知恵の結晶です。その上で、流れは作られました。諸先輩の英知と旅路での様々な御努力をなされて

きた諸先生方へ敬意を表する次第です。今後は、他の多くの先生方のさらなる睿智にもより、中身ある新たなるのほな同窓会館が展開されるよう望まれます。「人、一生は短くとも、心、永遠にあれ」のごとく。

なお、皆様のご寄付で運営され、そのご寄付には税法上の優遇処置がなされる公益財団法人、猪之鼻奨学会は、新会館へと移動します。若き医学生への奨学金や研究学徒への研究資金援助という事業を、新会館内事務室よりいたします。

- 145号1面
るのほな同窓会館に憶う
146号1面
新るのほな同窓会館設立
(千葉大学医学部創立135周年記念) 事業会発足
- (3) オンライン会報…
インタビュー…千葉大学記念講堂の価値を語る 栗生明
同窓会…るのほな同窓会報「るのほな」学生編集長時代の想い
- 【1】中野義澄 (昭和45)
【2】菊地紀夫 (昭和49)
「るのほな同窓会報学生編集部」誕生のころ 松本生オンライン書庫
(諸団体の紹介)…公益財団法人 猪之鼻奨学会
キャンパス便り…
2010春 千葉大学・亥鼻キャンパス・西千葉キャンパス
- 「2010・5・26掲載」
蘇る風景2010
春の亥鼻山と千葉市内
【前編】
・亥鼻キャンパス他
「2010・7・23掲載」
「新るのほな同窓会館」の計画概要について
栗生 明、鈴木弘樹
蘇る風景2011千葉・東京編
・亥鼻キャンパス他
「2012・3・21掲載」

研修プログラム

総合診療部

千葉大学大学院医学研究院
診断推論学

教授 生坂政臣 (昭60)

当部を開設してから無事10年目を迎えることができました。無事と付けたのは謙虚さからではなく、大学総合診療部は開設されても吸収・消滅する事例が少ないからです。その最大の理由は入局者数の低迷です。総合診療の定義づけが容易ではなく、アイデンティティが曖昧であるが故に、意欲ある若者が生涯のキャリアとするには役不足だと見なされているからでしょう。初期研修先としては人気があっても、後期研修医を確保できる施設はそれほど多くありません。

現在、我々が提供できる研修場所は、3つの外来ブースと小さなプリセプティングルームを合わせた20坪だけですが、診断推論を主眼とするカンファレンスを施行し、関連講座を開設して以来、毎年、募集定員以上の入局者と大学院生に恵まれてきました。特に診断推論カンファレンスは評判

となり、北は東北から南は九州まで、参加希望の開業医や勤務医は、千葉大病院の全研修登録医の半数を占めるようになりましたし、そのカンファレンスの様子は「NHK総合診療医ドクタIG」の雛形にもなりました。診断推論とは診断学のEOMの部分に心理学や確率論を持ち込んだ学問です。もともと診断学は内科学の根幹をなす領域ですが、先端医療追求で多忙な内科医にとつては当たり前すぎて、近年、顧みられなくなっていることに目を付け、診断推論学という形で当教室の核としたのです。最近ではマスコミなどの影響もあり、総合診療医は診断に長けているというイメージが定着しつつありますが、診断学は総合診療の専門性を表すものではないため、本分とする地域医療研修をきちんと行わなければなりません。

総合診療は本年度ようやく厚生労働省から19番目の専門診療科として承認され、さらに文部科学省も総合診療の名前を冠した初の大型競争資金を公募し、幸い千葉大学からの申請案も採択されました。厚生省と文科省が足並みを揃えたかのようになり、打ち出したこれら2つの政策は、総合診療の世界で仕事をする者にとって画期的な出来事であり、平成25年は総合診療元年とも呼ぶべき年になりました。

折しも来年には千葉大学医学部附属病院の新外来棟が竣工を迎え、当教室の外来ブース数も3倍に増加します。これにより、これまで多くの希望があったにもかかわらず、制限を余儀なくされていた初期・後期研修医および研修登録医の受け入れ人数を大幅に緩和できますし、先の競争資金でこれまで育成した人材を診療所の指導医として雇用し、大病院から地域へ研修の場を拡大して、新たに認定される総合診療専門医の育成に乗り出します。また、これらの診療所と附属病院総合診療部を「C」でつなぎ、カンファレンスや症例を共有することにより、大病院を受診する比較的良好なだけでもプライマリ・ケアに欠かせない疾患と、地域で高頻度疾患の両者を経験

できる研修体制を構築する予定です。大学病院外来での紹介患者を対象とした、これまでの診断推論研修は当教室のファーストステージであり、今春いよいよセカンドステージとなる総合診療専門医

育成を視野に入れた地域医療研修を開始します。このようなプライマリ・ケア研修の強化を通して、千葉大学医学部附属病院の初期研修マッチング率向上や地域医療の充実に尽力して参ります。

船橋二和病院

院長 長谷川 純 (昭49)

船橋二和病院は1981年(昭和56年)、千葉県船橋市で民主的医療運動に支えられて開院。患者、地域住民のいのちと健康を守り、24時間安心してかかることができる病院として、二次医療機関・救急医療を担ってきました。船橋市(人口61万)北部に位置し、地域の拠点病院として、予防からリハビリテーションまで一貫した総合的な医療を追求。入院・外来・救急、在宅医療等の診療にあたる中で、第一線医療に力をそそいできました。船橋市内では二次救急ネットワークの当番病院として月3〜4回担当し、年間の救急車受け入れ件数は3千件を超えています。小児科は市内で2つしかない入院病床を持ち、小児二次受け入れ病院として、入院・外来診療を数多く

行っています。産婦人科も、糖尿病や慢性腎疾患などを数多く診ている内科や小児科及び市内唯一の常勤医のいる小児外科との連携で、安心してお産の出来る病院として地域では貴重な存在です。また、病院内外で医療と社会保障について健康友の会や患者会などと協同した活動や、出張健診をはじめとする保健予防活動を地域の中で積極的にすすめています。2002年4月厚生労働省の臨床研修病院の指定、2006年1月医療機能評価機構の認証を得ました。

当院の千葉大学出身の医師は、附属診療所所長(内科)・高橋稔(昭42)、副院長(内科)・松隈英樹(昭55)、副院長(心臓血管外科)・守月理(昭57)、副院長(内科)・宮原重佳(昭62)、小児科科長・森田昌男(昭58)、小児外科科長・新保和広(昭60)、病理科長・下山英(平3)、放射線科長・加藤肇(平3)、リハビリ科長・関口麻里子(平6)、ふさのくに家庭医療センター代表・松岡角英(平12)、他7名となっています。

当院の研修では「主治医を育成する研修」を位置づけています。年齢・性別を問わず、患者さんを一人の「人間」としてとらえ向き合うこと。疾患の種類によらず全身各部の診療の求めに応じること。そして、継続して患者さんの生命と生活に責任を持ち続ける医師のことを「主治医」と定義し育成に努めています。

研修プログラムは、30年以上前から行っている幅広い一口一テート研修で診療能力の取得をめざします。

内科、救急、地域医療と外科(麻酔科を含む)、小児科、産婦人科、精神科の全て

を経験をします。更に、規模の異なる病院(内科)や診療所での研修により様々な患者さんを診療し、総合力の習得が望めます。研修管理委員会、研修評価会議、指導評価会議、他職種も交えた院内医師研修委員会を定期開催することで、研修の到達度を多角的に集団で評価し、適切な指導に繋がっています。会議でされた研修医の意見や要望は、カリキュラムや研修内容などにも反映します。

初期研修後は、基幹科や家庭医などの後期研修プログラムも用意し、地域医療を担う医師の育成に取り組んでいます。



研修医だより

後期研修5年目を終えて

千葉大学医学部附属病院呼吸器内科

安部 光洋 (平20)



私は平成20年に千葉大学医学部を卒業し、君津中央病院にて2年間の初期研修を行いました。その後、同院呼吸器科にて3年間の後期研修を行い、本年4月より呼吸器内科に入室させていただきました。また、千葉大学医学部附属病院呼吸器内科の病棟医として勤務しております。

君津中央病院は、千葉県内の基幹病院として主要な診療科が揃っており、また三次救急病院として救急医療にも力を入れていたために研修先として希望しました。初期研修を始めた頃は、内科医になりたいと思っていました。内科の中での専門分野はまだ決めかねていました。また、専門分野の診療だけでなく目の前にいる患者さんの全身を診て

た。気管支喘息を始めとするアレルギー疾患はもちろんですが、間質性肺炎や肺胞出血などを合併するため膠原病や血管炎などの自己免疫疾患の診療にあたることもできました。その他に、肺炎・胸膜炎、肺結核などの感染性疾患、肺塞栓症や心不全などの循環器疾患など、扱う疾患が非常に多岐にわたっており、全身を診察できる内科医になりたいと思っていた私の理想像と一致しました。また君津中央病院の呼吸器内科でお世話になった先生方がみなとても親切であり、そのような理由から、呼吸器内科を生涯の専門科とすることにしました。

初期研修の後、そのまま後期研修を君津中央病院呼吸器内科で3年間行いました。途中で他の病院への異動も考えましたが、3年間の診療で一人一人の患者さんを初診から最後まで通して診られる機会が多く得られたことは大変勉強になりました。そして現在卒業以来5年ぶりに千葉大学に戻り、呼吸器内科の病棟医としての後期研修に励んでおります。大学卒業時点ではまだ新病棟建設中でしたので、新しい病棟に感激しました。

人事異動

- 教授** 臨床試験部 花岡 英紀 (平5) (同部講師より)
- 特任教授** 社会精神保健教育研究センター 治療・社会復帰支援研究部門 渡邊 博幸 (平4) (精神医学准教授より)
- 講師** 精神医学 橋本 佐 (平20院) (同領域助教より)
- こどものこころ診療部 椎名 明大 (平12) (同部助教より)

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら
ものはな同窓会事務局にもご一報ください。

電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp

- 他大学教授就任** 東京慈恵会医科大学 大学院医学研究科緩和医療学 麻酔科学講座 下山 直人 (昭57) (東京医科大学病院緩和医療部教授より)
- 日本医科大学大学院医学研究科 生体統御科学 柿沼 由彦 (昭63) (高知大学基礎医学部門循環制御学准教授より)
- 産業医科大学医学部眼科学 近藤 寛之 (昭63) (同准教授より)

製薬会社は、幸せな未来を描いているだろうか？

MSDは、医薬品やワクチンの提供を通じて、日本の、そして世界の医療ニーズにお応えしています。そこで思い描いているのは、皆さまのすこやかな未来。薬の力を未来の力につなげるために。これからもMSDは、時代を切りひらく革新性と科学への揺るぎない信念で、画期的な新薬やワクチンの開発に取り組んでいきます。

MSD株式会社 東京都千代田区九段北一丁目13番12号 北の丸スクエア www.msd.co.jp

新薬で、未来をひろく。 MSD

千葉県医師キャリアアップ・就職支援センター

千葉県 Dr.BANK ドクターバンク

医師無料職業紹介

千葉県ドクターバンクでは、県内医療機関で働いていただける医師の皆さまの登録を受け、求人登録している医療機関に関する情報提供や紹介等、就業に関する支援を行います。

出産、育児等でしばらく就業していなかった女性医師や、一度退職され再び職場復帰を考えている医師の方も、是非ご利用ください。

詳細はWEBで!

千葉 ドクターバンク で 検索

URL: <https://www.chiba-dr-bank.org/>



千葉の医療を支える一人に!



千葉県PRマスコットキャラクター テーパくん

千葉県医師キャリアアップ・就職支援センター

千葉県 Silver Dr.BANK シルバードクターバンク

定年退職者等のための医師無料職業紹介

千葉県シルバードクターバンクは、定年退職された医師や高齢の医師の皆さまに対して、高齢であってもその知識技能を発揮できる就業が可能な医療機関の情報提供や紹介など、就業に関する支援を行っています。ベテラン医師としての経験をいかして千葉県で働いてみませんか? ご登録をお待ちしています。

詳細はWEBで!

千葉 シルバードクターバンク で 検索

URL: <https://www.chiba-sildr-bank.org/>



NPO法人 千葉医師研修支援ネットワーク Chiba Doctors' Career Support Network

〒260-8677 千葉市中央区玄鼻1丁目8番1号 千葉大学医学部附属病院 教育研修棟2階 TEL: 043-222-2005 FAX: 043-222-2733

【厚生労働省 無料職業紹介事業許可番号 12-4-300012】 E-mail: office@dcs-net.org

千葉県許諾第A305-6号

Basic & Clinical Research Conference

第7回 開催のお知らせ

参加費：医師のみ **1,000円**（研修医、学生は不要）

ちば Basic & Clinical Research Conference

日時 **平成26年2月1日(土) 13:00 ~ 17:00**

場所 **京成ホテル ミラマーレ 6階ローズルーム**
 千葉市中央区本千葉町 15-1 TEL: 043-222-2111

※本研究会はスカラーシッププログラムの講義としても位置づけております。

13:00 ~ 開会の辞

千葉大学大学院医学研究院長 横須賀 収 先生

13:10 ~ メーカーセッション

座長 千葉大学医学部附属病院 アレルギー・膠原病内科 教授 中島 裕史 先生

『ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療』

演者 千葉大学医学部附属病院 アレルギー・膠原病内科 助教 玉地 智宏 先生

13:30 ~ 講座紹介

座長 千葉大学大学院医学研究院 免疫細胞医学 教授 本橋新一郎 先生

『診断推論を如何に学び、如何に教えるか』

演者 千葉大学医学部附属病院 総合診療部 教授 生坂 政臣 先生

『生物としてのウイルス、無生物としてのウイルス』

千葉大学大学院医学研究院 分子ウイルス学 教授 白澤 浩 先生

14:30 ~ 学生発表

座長 千葉大学大学院医学研究院 分化制御学

助教 坂本 明美 先生

東邦大学医学部 整形外科学講座(佐倉)

准教授 中島 新 先生

15:30 ~ コーヒーブレイク

15:50 ~ 特別講演

座長 千葉大学大学院医学研究院 薬理学

教授 中谷 晴昭 先生

『未来を担う君たちへ ~医学研究を楽しもう~』

演者 千葉大学大学院医学研究院 分化制御学

教授 徳久 剛史 先生

16:50 ~ 学生講演表彰

司会 千葉大学大学院医学研究院 整形外科学

教授 高橋 和久 先生

17:00 ~ 閉会の辞

千葉大学医学部医学教育研究室

教授 田邊 政裕 先生

【世話人(敬称略)】

- 千葉大学医学部附属病院長
- 千葉大学大学院医学研究院長
- 千葉労災病院院長
- 千葉大学医学部医学教育研究室教授
- 千葉大学大学院医学研究院整形外科学教授
- 千葉大学大学院医学研究院分化制御学教授
- 千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学教授
- 千葉大学大学院医学研究院薬理学教授
- 千葉大学大学院医学研究院分化制御学

- 宮崎 勝
- 横須賀 収
- 河野 陽一
- 田邊 政裕
- 高橋 和久
- 徳久 剛史
- 白澤 浩
- 中谷 晴昭
- 坂本 明美

【事務局】

千葉大学大学院医学研究院 整形外科学 大鳥 精司
 電話 **043-226-2117**
 (内線 5303、5304)
 FAX **043-226-2116**
 E-mail sohori@faculty.chiba-u.jp

共催：ちば Basic & Clinical Research Conference
 千葉医学会 / 第一三共株式会社



学内情報

みのり同窓会支援

第8回亥鼻キャンパス留学生交流会

生命情報科学 田村 裕
 分子生体制御学 木村 定雄
 小児外科学 吉田 英生

平成25年11月1日(金)、
 亥鼻同窓会館において、第
 8回亥鼻キャンパス留学生
 交流会を開催しました。医
 療系3学部(医学部、薬学
 部、看護学部)が亥鼻キャン
 パスに統合され、海外か
 らの留学生・研究者も総計
 81名と増加しました。今回
 は、海外13カ国(香港・ウ
 イグル自治区を含む中国、
 台湾、バン格拉デッシュ、
 マレーシア、ロシア、南ア
 フリカ共和国、ネパール、
 インドネシア、モンゴル、
 タイ、韓国、フィリピン、
 エジプト)の留学生・研究
 者51名とその家族22名の計
 73名、高校生6名を含む各
 学部の教職員・家族・友人
 37名、総数110名の多数
 の参加があり、みんなで楽
 しい一時を過ごすことがで
 きました。嬉しいことに留
 学生の家族(奥様・ご主人・
 子供・祖母、友人など)の
 参加数は22名で、第1回
 第7回の15・8・10・11・14

14名と比べて一番多くなり
 ました。それだけ参加しや
 すい雰囲気となったのでは
 と思います。

新しい同窓会館が現在建
 設中であり、今年の開催が
 最後となる旧同窓会館が本
 当に狭く感じられるほどの
 大盛況でした。医学部から
 吉田英生副医学研究院長
 (広報・連携・国際担当)、
 木村定雄教授、看護学部か
 ら宮崎美佐恵看護学研究科
 長、岩崎弥生国際交流委員
 長、薬学部から荒野泰葉学
 研究院長、西田篤司教授、
 石橋正己教授、齊藤和希教
 授、国際教育センターから
 見城悌治准教授など多数の
 ご出席をいただきました。

会場ではとくに子供さんと
 お祖母ちゃんの笑顔がとて
 も輝いて見えました。留学
 生の子供さんが毎年顔を合
 わすたびに背丈が伸びてお
 兄さんお姉さんに大きく成
 長してい

桜の風景の写真と共にCD
 として無料で留学生全員に
 記念に配布しています。参
 加した皆さんの笑顔がとて
 もすてきです。ぜひご覧く
 ださい。

のりがよ
 くわかり
 ました。
 指導教員
 や多数の
 教職員を
 交えての
 交流会は
 年1回で
 すがやっ
 ぱり大切
 な想いと
 出合いの
 場所とい
 う思いが
 しまし
 た。

交流会
 途中の集
 合記念写
 真には84
 名が写っ
 ています。
 毎年交流
 会の多数
 の写真は
 亥鼻地区
 の各学
 部・セン
 ターと病
 院の建物



第8回亥鼻キャンパス留学生交流会
 2013.11.01.

第56回 東日本医科学生総合体育大会 夏期競技結果

	優勝	準優勝	第3位	千葉大学医学部順位
硬式野球	千葉大学	聖マリアンナ医科大学	獨協医科大学	優勝
硬式テニス(男子)	東北大学	慶應義塾大学	信州大学	1回戦敗退
硬式テニス(女子)	筑波大学	福島県立医科大学	日本医科大学	1回戦敗退
ソフトテニス(男子)	新潟大学	岩手医科大学	札幌医科大学	予選トーナメント5位
ソフトテニス(女子)	秋田大学	群馬大学	弘前大学	予選リーグ敗退
卓球(男子)	山形大学	東北大学	千葉大学	第3位
卓球(女子)	順天堂大学	東京女子医科大学	秋田大学	ベスト16
バレーボール(男子)	旭川医科大学	山形大学	新潟大学	第4位
バドミントン(男子)	旭川医科大学	岩手医科大学	千葉大学 福島県立医科大学	第3位
サッカー	順天堂大学	筑波大学	群馬大学	第4位
バスケットボール(男子)	慶應義塾大学	新潟大学	東邦大学	ベスト8
バスケットボール(女子)	昭和大学	東京女子医科大学	筑波大学 聖マリアンナ医科大学	ベスト16
剣道	自治医科大学	旭川医科大学 秋田大学	群馬大学 順天堂大学	予選リーグ1位通過 ベスト16
空手	山形大学	札幌医科大学 獨協医科大学	防衛医科大学校	1回戦敗退
弓道	札幌医科大学	東北大学	千葉大学	第3位入賞(全医体出場)
水泳(男子)	東北大学	慶應義塾大学	防衛医科大学	400mメドレーリレー7位 200mメドレーリレー8位 400mフリーリレー8位
水泳(女子)	東京女子医科大学	山形大学	筑波大学	総合4位
ヨット	筑波大学	東北大学	東邦大学	第23位
ゴルフ(男子)	慶應義塾大学	北海道大学	東京慈恵会医科大学	第23位
ラグビー	弘前大学	獨協医科大学	東北大学	1回戦敗退
第56回 東日本医科学生総合体育大会 夏期競技結果総合ポイント				
第1位	第2位	第3位	千葉大学医学部順位 12位/36校	
慶應義塾大学	筑波大学	東北大学		

個人成績

卓球(男子)	シングルス…ベスト32: 小野亮平	ダブルス…ベスト8: 小野亮平・藤田教寛
剣道	3回戦進出 澤田大輔・吉村悟志	
空手 組手	2回戦敗退 岩田翔平 楽満紳太郎	
弓道	個人第十位: 堀川貴史 最高学年賞: 堀川貴史	敢闘賞: 井田友明 射道優秀賞: 堀川貴史
水泳(男子)	800m自由形 第7位: 宮崎文平	50m自由形 第4位: 横山大騎
水泳(女子)	50m平泳ぎ 第2位: 齋藤瑞恵	100m平泳ぎ 第4位: 齋藤瑞恵
ヨット	JPN4305個人戦 第2位: 三井健太郎/西織浩信	

今後とも、新しい若い世
 代との交流の場として、日
 本でのより楽しい学生生
 活・研究生活の想い出とな
 るより充実した交流会とし
 て発展・継続させていきたく
 と思っています。医療系
 3学部が勢揃いして、ます
 ます密接な交流・協力体制
 が築けるものと確信してお
 ります。2006年に亥鼻
 地区の留学生交流会を立ち
 上げた木村教授が来年3月
 で定年退職されます。第8
 回までのご努力に感謝いた
 したいと思います。
 最後に、ご支援をいただ
 きましたISDの渋谷圭美
 氏、医学部学務係・豊田英
 樹氏、小林葉月氏、薬学部

と看護学部の学務係の皆様、
 留学生の皆様へ感謝申し上
 げます。瀧口正樹教授、分
 子生体制御学の西山真理子
 氏、住宮葉弥香氏、みのり
 な同窓会、薬学部葉友会、
 看護学部同窓会の皆様のご
 協力ご支援に厚くお礼申し
 上げます。

東日本医科大学総合体育大会優勝

硬式野球部 医学部4年 太田 仁

平成25年度第56回東日本医科大学総合体育大会におきまして千葉大学医学部硬式野球部は35年ぶり6回目の優勝を果たすことができました。

東医体では過去5年で4度の準優勝と優勝まであと一步のところ足踏みを重ねてきていましたが、本年ついに悲願を達成することができました。初戦こそ苦戦を強いられたもののその後は順調に勝ち進み、2年連続して決勝戦に進出しました。この決勝の対戦相手は昨年と同じ聖マリナ医科大学となり、終始リードを許すことなく勝利を収めることができました。同じシチュエーションで同じ失敗を繰り返さなかったことがこの一年でチームの最も成長できた点であったと考えます。過程はもちろん重要ですが、優勝という形として結果を得られたことは、チームとしても個人としても今後への自信に繋がれるものと考えます。この一年間やってきたことが意義あるものであったと実感すれば次の一年への姿勢も変化していくものと考えます。

また優勝するチーム作りのできる環境があるのは、この硬式野球部がOB・OGの方々に支え続けられているためです。神奈川県で行われた東医体にも多くのOB・OGの方々が応援にいらして下さりました。私たち部員一同は伝統ある硬式野球部に所属させて頂いているという意識を常に持ち、OB・OGの方々への

感謝の気持ちを忘れることなくこれからも部員として自覚ある行動をとっていきたいと考えます。

今年度は関東医科大学硬式野球リーグにおきまして3年ぶりにI部リーグ優勝を果たしており、硬式野球部としては満足いく結果を得られたシーズンとなりました。ただ目標を達成した後も達成感ばかりに浸らず、今後も新しい目標に向かい、慢心することなくチーム一丸となつて日々努力を続けていく所存です。



亥鼻祭

2013年度亥鼻祭実行委員長

医学部4年 小野 亮平

2013年度亥鼻祭(11月2日、3日開催)についてご報告させていただきます。亥鼻祭は今年度復活して11周年を迎えることができました。1日目は生憎の雨で来場者が非常に少なかったのですが、2日目は天気も盛り返し、約2200名の方々にご来場頂きました。こうして亥鼻祭が続いておりますのも、なのはな同窓会会員の先生方を始めと致しまして皆様のご協力あつてのことと存じております。実行委員一同、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

今年には記念講堂が使えなかった関係上、講演会の企画を看護棟内で行ったり、雨天の中STAGE上にテントを設営してその下でバンドを行ったり、後夜祭を野外で行ったりと、例年にはない事態もございましたが、それでも無事に終えることができましたのはマンパワーと協力の賜物であると実感しております。大学祭は在学生だけのものではなく、地域の方々、卒業生の方々、

ご家族の方々、はたまた末来の千葉大生と繋がることのできる貴重な場であると考えております。そのような大学祭が続くこと自体に意味があると思えますし、末永くこの亥鼻祭が開催されることを切に願います。これからも亥鼻祭を温かく見守って頂き、毎年足をお運び頂ければ幸いです。

尚、ご寄附を頂きました方々へは御礼が遅れまして大変失礼致しました。後日詳しい企画の内容等に関しましての報告書及び御礼状をお送り致します。今後とも亥鼻祭をよろしくお願ひ致します。

2013年度亥鼻祭実行委員会

- | | | | |
|------|----------|------|-----------|
| 委員長 | 小野亮平(医4) | 実行委員 | 岩永光巨(医5) |
| 副委員長 | 近藤優帆(医4) | | 石野貴雅(医4) |
| 副委員長 | 山内優子(看3) | | 高木賢人(医4) |
| 副委員長 | 大川結子(薬3) | | 榊原のぞみ(看4) |
| 施設局長 | 寺川文英(医4) | | 山口弘美(薬4) |
| 財務局長 | 岸本真治(医2) | | 松村 凱(医3) |
| 広報局長 | 森 春輝(医3) | | 武内 崇(医3) |
| 企画局長 | 鈴木健文(医5) | | 山田夏生(看3) |
| 総務長 | 池田耀介(医4) | | 富澤優実(薬3) |



課外活動団体だより

山岳部

医学部2年 吉元 将也

千葉大学医学部山岳部の部長を務めております、吉元将也です。この場をお借りして、山岳部についての簡単な紹介と、今年度の活動報告をさせていただきますと思います

まず山岳部を簡単に紹介いたします。山岳部は1953年設立、今年でちょうど創部60年の節目を迎えました。部員が少ない時期もあったようですが、現在は20〜25人ほどとなり、OBの先生方、昨年から顧問に就任して下さった中島裕史先生のご支援を頂きながら、お陰様で活発に活動しております。部員は多鼻キャンパスの医学部生、看護学部生、薬学部生だけでなく西千葉キャンパスの教育学部生、工学部生など様々な学部・大学院の学生からなります。なかには2年生以上で入部する学生も少なくありません。中学・高校で山岳部、ワンダーフォーゲル部等を経験した者もおりますが、多くは大学に入ってから初めて山と出会った、自然

が好きな学生です。山岳部だけの部員もおりますが、他の運動部・文化部の活動も並行して行っている部員も多く、私もスキー部・卓球部でも活動しております。登山の対象としては、筑波山・奥多摩・丹沢など関東近郊の低山から、北アルプス・南アルプス・八ヶ岳などの本格的な山まで、形態も日帰り・小屋泊・テント泊など様々です。登山経験の有無を問わず「誰でも気軽に、安全に山登りを楽しむことができる」ということが山岳部の魅力の一つであると考えており、初心者も低い山から始めて経験を積んだ後、本格的な登山にも挑戦できます。山は、普段絶対には味わうことのできない大自然の雄大さや美しさを私たちに見せてくれます。以前から山中寮の幹部も務める部員がいることもあり、富士山7合目の救護所ボランティアにも参加しています。山に行く前後には、打ち合わせや反省会と称し、飲み会、ご飯会な



ど、とても楽しく活動しています。次に2013年4月から活動報告をさせていただきます。5月に新入生歓迎登山として筑波山へ、7月に救護所ボランティアを兼ねて富士山に、9月に南アルプスの甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳へテント泊で、また10月にはOBの先生と共に北アルプスの鹿島槍ヶ岳にそれぞれ登りました。どの山も素晴らしかったのですが、私にとって最も印象に残っている登山として甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳が挙げられます。甲斐駒ヶ岳(2,967m)は花崗岩から成るために山肌が常に白く「南アルプスの貴公子」、仙丈ヶ岳(3,033m)は高山植物が豊富で山容がなだらかであることから「南アルプスの女王」と呼ばれています。今回、幸いなことに天候に恵まれて、富士山はもちろん遠く北アルプスまで見渡すことができました。大自然の中、自分たちで作るご飯、狭いテントの中で仲間とお酒を片手に笑いあう楽しさ、これは実際に登ってみないとわからないでしょう。写真は新入生歓迎登山で



登った筑波山の山頂で撮影したものです。今年は新入生が10名と、二年生が4名入部し、ますます盛り上がりつつあります。学生の皆さん、今からでも遅くありません、初心者でも気軽に楽しく山

7m)は花崗岩から成るために山肌が常に白く「南アルプスの貴公子」、仙丈ヶ岳(3,033m)は高山植物が豊富で山容がなだらかであることから「南アルプスの女王」と呼ばれています。今回、幸いなことに天候に恵まれて、富士山はもちろん遠く北アルプスまで見渡すことができました。大自然の中、自分たちで作るご飯、狭いテントの中で仲間とお酒を片手に笑いあう楽しさ、これは実際に登ってみないとわからないでしょう。写真は新入生歓迎登山で

登った筑波山の山頂で撮影したものです。今年は新入生が10名と、二年生が4名入部し、ますます盛り上がりつつあります。学生の皆さん、今からでも遅くありません、初心者でも気軽に楽しく山

卓球部

医学部3年 平田 優

千葉大学亥鼻卓球部は、水、金、土曜日の週三回、大学構内の体育館で練習しています。また、正規練習日以外でも自主練習が活発で、熱意のある部員が大勢います。現在は、医学部、看護学部に薬学部を加え、総勢30名程度の部員が在籍しています。中学や高校で卓球をしていた経験者と、大学から卓球を始めた初心者が半々の割合で活動しており、体育館で和気あいあいと活動しています。練習において卓球をする以外でも、ご飯会を行ったり、亥鼻祭でテント出店を行ったりすることで、部員との交流を深めています。春季、秋季における関東リーグや東日本医科学学生総合体育大会(東医体)、東日本医歯薬卓球大会など、様々な大会において、個人戦・団体戦で好成績をあげるため、

日々努力を重ねております。さて、平成25年度の春季関東リーグでは、男子団体で千葉大学は優勝することができました。春季関東リーグでは数年ぶりに優勝できたということで、部員一同喜びもひとしおでした。この大会の数日後に行われた新歓コンパでも、多くの新入部員に恵まれました。平成25年度の東医体では、男子団体は三連覇がかかっていましたが、三位という結果でした。改めて、優勝することがどれだけ難しいことかを感じました。女子は初心者として大学から始

登りを楽しむことができますので、ぜひ一度千葉大学医学部山岳部へお越しください。あなたのその目で、足で、耳で、五感をフルに使って共に山を感じましょう。

めた部員が多いのですが、東医体などの大会で好成绩をあげるために一生懸命練習しています。

部活では、OB・OGの先生方に大変お世話になっております。練習や部活の行事にいらつしやるOB・OGの先生方からは、卓球のことだけでなく、部活という組織をどうしていくとよいか、卒業して現場に出たらどうすればよいか、ということをお話していただきありがとうございます。部活の利点です。部活動の運営には

OB・OGの先生方のご協力が不可欠であり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

部活において情熱をもって努力することは、必ず将来医療の現場に出るとき糧になると思います。また、部員と一緒に汗を流した時間は、貴重な思い出として一生心に残るものになるとも思います。今後も、部活での時間を一瞬一瞬大事にし、励んでいきたいと考えています。(写真はH25年度東医体でのもの)

ののほな音楽部

医学部3年 齊藤 加奈

私たち千葉大学あののほな音楽部は、毎週水・金曜日に活動しています。薬学部講義棟やサークル会館のほか、千葉県文化会館など外部の施設を借りて練習を行っています。現在部員は医学部・看護学部・薬学部合わせて80名で、小さい頃からレッスンを受けているような人から、大学に入るまで楽器に触ったことのないような人まで、さまざまな部員が集まってオーケストラとして活動しています。

あののほな音楽部は、「病院でのボランティア演奏ができた」という思いから結成されました。年々活動の幅を広げており、現在では年2回の病院でのチャリティコンサートをはじめ、定期演奏会や亥鼻祭での音楽喫茶など、さまざまな形で演奏を行っています。部員数が増え、部活の規模も大きくなっていますが、OB・OGの方々が作り上げてきたあののほな音楽部のサウンドやアットホームな雰囲気は、昔から変わらずに受け

継がれているのではないかと思います。病院コンサートでは、クラシックからジャズなどのポピュラーなまでの幅広いジャンルの曲を演奏しています。千葉大学医学部附属病院では毎年12月にクリスマスコンサートを行わせていただいております。サンタクロースの格好をしたり、着ぐるみを着たりして、クリスマスソングなどを演奏しています。病院コンサートは聴きにきてくださる方との距離が近く、演奏中に患者さんの反応を感じることもできるので、目の前の患者さんと音楽を通じて会話をしているような気持ちになります。患者さんに笑顔と楽しいひと時をお届けできるように、これからも病院コンサートを続けていきたいと思っています。

写真は昨年の9月に行った第11回定期演奏会の時に撮ったものです。夏には合宿を行ったり、土曜日や日曜日にも一日練習をしたりと、半年間の集大成である定期演奏会に向けて日々練習を重ねてきました。困難なことも多くありましたが、部員一人ひとりが一生懸命に曲と向き合い、パートやセクションを超えて互いに意見を交わしながら、一つ



のオーケストラとしてまとまって音楽を作り上げることでできたときの喜びや達成感は素晴らしいものがあります。

最後に、私はあののほな音楽部に入って多くの貴重な経験ができたと感じています。楽器を演奏する楽しさや、演奏を通じて音楽の楽しさを伝えられる喜び、そして音楽を通じて得られた、たくさんの方とのつながり



はかけがえないものです。大学生活という限られた時間の中で得られたことを大切にしながら、これからも一生懸命部活動に取り組んでいきたいと思っています。

ののほな手話の会

医学部3年 吉村 悟志
看護学部3年 柏倉 早紀
看護学部3年 渡邊 裕子

現在、あののほな手話の会には医学部生・看護学部生・薬学部生からなるおよそ100名近い在校生が在籍しており、そのうちの20名ほどが日々の活動に参加している。あののほな手話の会は毎週月曜日の18時半からと木曜日の18時から同窓会館を拠点に勉強会を行っている。勉強会のスタイルとしては、基本的には3年生を中心として1年生に独自に作成したテキストを元に手話の単語を教える。時々、あののほな手話の会発足時から交流をもっている聾者・健富孝氏が会に参加して下さり、その豊富な知識を分けて下さったりもする。あののほな手話の会は発足時から暖かくアットホームな雰囲気を大切に、コミュニケーションの大切さを学んでいる。その暖かな雰囲気はあののほな手話の会が誇るべき特徴の一つであり、守るべき伝統であろう。また、豊富なイベントがあることも特徴の一つである。あののほな手話の会では以下のような年中行事を行っている。多くのメンバーが参加し和気藹々と交流を深めている。

- ・4月・5月 新入生歓迎イベント(ピクニック、浅草めぐり、新歓コンパなど)
- ・8月・9月 手話会夏季補習会、夏旅行、八千代医療センターでのBlack Box
- ・10月 ウルトラマンの会(西千葉にある手話サークル)との交流会
- ・11月 亥鼻祭でのBlack Box、幹部交代式、温泉旅行
- ・12月 クリスマスパーティ
- ・2月 追いコン、スキー旅行
- ・各月に誕生日会

数々のイベントの中で一番特徴的なのは「Black Box」であろう。「Black Box」では視覚障害者の江藤昌弘氏をお招きし、亥鼻に設けられたステージの上で熱唱して頂く。そこにあののほな手話の会のメンバーが歌詞に手話をつけて発表をする、所謂「手話ソング」あるいは



は「歌手話」の発表の場となっている。江藤氏の歌声は大変素晴らしく、亥鼻祭に訪れた人々がステージの前で思わず足を止めてしまふほどだ。視覚障害というハンデを負った江藤氏的美丽い歌声と、聴覚障害を抱えた人々へささやかにでも

メッセージを届けたいと願う学生のパフォーマンスが一体となり、観客へ訴えかけるものがある。2008年には、廣瀬陽介氏(03年卒・東京女子医科大学付属八千代医療センター小児科勤務)の計らいによって、八千代医療センターの納涼

祭で亥鼻祭と同様な「B&B」を行うことができた。八千代医療センターでの発表は大変好評で、今年(2013年)の9月にも引き続きお招き頂いた。今後ものはな手話の会の新たな伝統として続いていくことを願っている。

活動を通して手話を学びつつ、学生はコミュニケーション術やその大切さをも

雑文雑談 銀座の表面張力

石出猛史(昭52)

貪欲に学び取っている。その姿勢は将来、人を相手に医療を行う者達にとつて大変重要なことであろう。もちろん手話の技術力を上げることでも大切な課題だ。だが、ものはな手話の会ではそれ以上に人同士の関わりや交流を大切にしている。今後も更に活動を充実させ、会の発展のために尽力したい。

東京都中央区銀座の歴史を辿ると、江戸幕府が神田山を崩して埋め立てた地に、丁銀・小粒銀などの銀貨を铸造する役所(銀座)を置いたのが、地名の由来である。正式な町名は、新両替町一〜四丁目、二丁目に銀座が置かれた。一・三・四丁目は、銀座の役人・職人らの住居、铸造所にあてられたといわれている。

銀座という町名は、新両替町の通称である。当時、小判などの金貨を铸造する役所である金座は、本両替町に設けられていた。日本銀行本店(中央区日本橋本石町2-1)が、金座が置かれていた場所である。明治2年(1869)の

三笠会館の近くに、交旬ビルという建物がある。福沢諭吉が提唱して設立された、本邦初の実業家の社交クラブ交旬社が入っている。数年前に建物が老朽化したのと、設備が現在の消防法に抵触する事になった。しかし設計者のお孫さんらが、保存運動をおこして、外装を一部残して改築された。改築前の建物の一階に、サン・スーシというバーが入っていた。銀座で一番古いバーといわれているのが、芝御門近くのポルドー(昭和2年)で、2番目に古いのが、作家の太宰治や坂口安吾が通った五丁目にあるルパン(昭和3年)である。サン・スーシは昭和4年の開業ということであった。ここでカウンターに坐つて、ドライ・マティニを注文した。バーテンがカウンターのの上を、ソツと押すようにグラスを出してきた。見ると、マティニがグラスの縁から盛り上がり、こぼれそうである。「これ、どうやって飲むのかね」と尋ねると、バーテン曰、「口を持っていて、飲むんです」。これは呑ん平の飲み方である。最近、扇子や手拭を使った処作をする噺家が、

少なくなったような気がするが、盃を持つ手を動かさずに、盃に顔を近づけるしぐさを見ると、いかにも酒好に見えるのである。話の続き。「こは、銀座の旦那衆が来る所じやないのかね」と聞くと、更にバーテン答えて曰、「その旦那衆が、グラスの縁から盛り上っていないと、表面張力」と言つて承知しないんです」と。

英和辞書をひくと、サン・スーシsum.sueとは、「気ままに」とある。店名の名付親は、作家の谷崎潤一郎だといふ。ステンド・グラスを店の売り物にしていた。交旬ビルの工事が始まると、近くの金田中ビルの2階に移つて営業を続けていた。移転後も2、3度行つたのだが、常連客が定年などで減つてしまつたということ

- 〔循環病態医科学〕 丘慎清、宮澤一雄、杉浦淳史
- 〔公衆衛生学〕 西出朱美
- 〔法医学〕 安部寛子
- 〔臨床分子生物学〕 幸塚裕也
- 〔放射線医学〕 原田亜里咲
- 〔放射線治療学〕 塩見美帆
- 〔細胞分子医学〕 司沙
- 〔細胞治療内科学〕 駒井絵里、永尾侑平
- 〔分子腫瘍生物学〕 李知漸
- 〔医療行政学〕 片山加奈子、宮崎浩一
- 〔神経科学〕 楊春

平成25年度 大学院医学薬学府10月入学者

会員から

スーダンの無医村での医療活動 の は な 同 窓 会 で も 話 を き い て み よ う

前上武大学長 前群馬大学長
鈴木 守 (昭39)



筆者は一九八〇年、JICAマラリア対策計画の使節団長としてスーダンを訪れました。その後十年続いた交流は外交上の理由で打ち切られ連携は途絶えておりました。私が主宰していた群馬大学医学部寄生虫学教室は外務省医務官のマラリア研修機関として委嘱をうけていました。研修生の中に九大の第二外科から医務官のポストに派遣された川原尚行博士がおりました。アフリカに赴任して熱帯医学に深い関心を持った川原医師はロンドン熱帯医学研究

所、小倉高校のラグビー部OB有志は「放っておけない」と支援母体NPO法人ロシナンテスを立ち上げ、その事務所が今小倉に開設されています。川原医師の活動は、巡回して住民

所のディプロマも取得しました。大学の外科に戻るも、熱帯医学専門家もよし、そのまま外交官として留まることもできるという前途を約束された川原医師は突然、「単独スーダンの無医村で医療活動に身を投ずる」決意を表明し、外務省を辞任しました。小学生の長男以下3人の愛児は九州にもどき、奥さんが小学校の臨時教員をつとめて一家を支えることになりました。八年前のことです。彼が一時帰国してまたスーダンに発つ時、別れの辛さに涙する姿も見られました。

小倉高校のラグビー部OB有志は「放っておけない」と支援母体NPO法人ロシナンテスを立ち上げ、その事務所が今小倉に開設されています。川原医師の活動は、巡回して住民

の家を一軒ずつ回るところからはじまりました。今も原則その姿勢は変わりません。現地の人びとの自助体制により地域医療が推進されることをめざす川原医師は女子教育のための学校も作り、水道などのインフラ整備も進め、若者にスポーツ活動を根付かせチームワークを身につけるキャンペーンも広げています。それらの活動資金はロシナンテス会員の会費、帰国時の講演会の謝金、寄付金など、すべて浄財により賄われています。川原医師に対する講演依頼は、大学、学会、学生をはじめ会社の幹部研修、小中学生、高校生など全国からよせられます。「スーダンには何もない、しかし日本が失った何かがある。」実践に基づくアピールは、日本社会に波紋を広げTVなどマスコミ関係者の取材も頻繁になつてきました。

伊香保温泉での「同窓会親睦会」に際して、NHK総合テレビ「プロフェッショナル・仕事の流儀」に放映された川原医師の現地の様子を皆様に見ていただきました。伊藤同窓会長も川原医師の行動に感銘をうけ、「千葉においても講演をお願いしたい」旨話しておられ

ました。十月二十一日には、川原医師を伴って亥鼻台を訪れ、千葉大学真歯医学研究センターの笹川千尋センター長、亀井克彦教授を表敬し、支援をお願いいたしました。本件をオールジャパンの大きな視点で取り上げ対応していくことを約束して下さいました。センター訪問後、呼吸器外科の吉野一郎教授(九大出身)をお訪ねし、伊藤同窓会長のお考えをお伝えいたしました。

第38回 の は な 美術展 開催

島田 哲雄 (昭41)

た。吉野教授も川原医師の講演で学生の視野が大きく開くことを期待したいのご意向でした。「ひとりではみんなのために、みんなはひとりのために」このラグビーの標語はそのままロシナンテスの理念となっております。市民も一緒に川原医師の講演を聞く催しがの は な 同窓会の主催により千葉で実現することを望んでいます。

第38回 の は な 美術展 出品作品		
氏名	卒業年	作品
1 島田 哲夫	昭41	①九月のある日 ②眠り ③新穂高
2 榎本 貴夫	昭47	①ハロン湾—北ベトナム— ②桜—福岡堰・茨城—
3 石井 邦夫	昭26	①裸婦 ②哄笑 ③静物
4 石谷 治彦	昭24	①箱根
5 伊藤 進	昭26	①紙風船 ②秋の花 ③玉蜀黍 ④新宿御苑 台湾閣
6 野口 真利	昭40	①バルビゾン風景 ②自画像 ③オンフルールの建物
7 吉川 広和	昭40	①堂が島薄暮
8 川村 孝子	昭36	①パレリーナA ②パレリーナB ③ニュルンベルクにて一かつての修道院のある水辺— ④素描
9 宮下 久夫	昭38	①天空の里 下栗
10 橋本 英明	昭45	①シンプルな耳飾り ②グラン・ジュテ (ロバート・ハイデルの複写) ③フランス語の勉強
11 神山 英明	昭22	①皿とスプーン

◎不出品者 関根博・柴崎晃 (順不同)

平成25年10月18日現在

25年度会計報告

25年度収入		25年度支出	
同窓会賛助金	200,000	会場費	420,000
会員出品料11名	330,000	案内状印刷・通信用品等	43,950
不出品 2名	10,000	懇親会・前年度不足金	13,950
合計	540,000	合計	477,900



写真右から 川村孝子、島田哲夫、石井邦夫、宮下久夫、吉川広和、橋本英明

海外便り

Global TB Programme

世界保健機関本部 結核対策部

小野崎 郁史 (昭59)

ジュネーブにあるWHOの本部に赴任して7回目の冬を迎えました。朝食の食卓、また通勤の車窓からモンブランを眺める生活というと羨まれますが、冬はレマン湖にかかる霧のため、また年間の半分はアジア・アフリカの結核高まん延国への出張のためなかなかスイスの生活をエンジョイするところまではいきません。

私は1984年に卒業後、肺がん研究施設呼吸器内科、千葉市立海浜病院、結核予防会千葉県支部（現ちば県民保健予防財団）などで諸



が薬を確実に服用できるような包括的な結核対策・医療サービスのパッケージ（普及のキャンペーン、エイズ・結核・マラリア対策のための世界基金の創設など）により、状況は飛躍的に改善しつつあります。しかし、まだ年

間900万人近い患者が発生し、HIVの要素を除いても100万人ほどの死者が発生していると推測されています。また昨今は多剤耐性結核、超耐性結核の存在、伝搬が問題になっています。貧困・保健衛生・教育などさまざまな分野で21世紀になり2015年をターゲット年とした国連のミレニアム開発目標が定められました。それに関連して結核死、有病率の半減などの国際的な目標も定められました。開発途上国で病気の事態や疫学的な推移を明らかにすることは容易ではないことによりWHOでは各国や専門機関と協力してGlobal Task Force on TB Impact Measurementを2006年に創設しました。タスクフォースにはサーベイランス強化など3つのチームがありますが、私はそのうちの一つの全国結核有病率調査実施促進のリーダーを務めています。

胸部X線によるスクリーニングや細菌培養同定検査に基づく診断などは、私たちにあたりまえのことですが、電気も水道もない村も多い国ではなかなか実施できません。調査チームを20余りの重点国各国で組織し、疫学的手法で全国に50から100程度の調査地点を設定し、X線読影やラボの検査のトレーニングを実施し、村から首都の中央ラボへの検体搬送システムを確立してなどなど、最初の数年はアフリカでは手取り足取りの暗中模索でした。しかし2009年のミャンマーや2011年のカンボジアなどアジアでの成功をお手本に、2011年にはアフリカでは5年ぶりとなる全国調査がエチオピアで、2012年はタンザニア、ナイジェリア、ルワンダで完了するなどようやく目に見えた成果が出てきました。アフリカでも10カ国程度のデータのそろそろ2014年にはブラックボックスだったアフリカの結核の状況をはじめ明らかにすることができるとおもいます。

調査の準備、実施を通じた各国の若い医師・研究者たちとの交流により彼らの力が伸びていることを直接感じることができるとは喜びです。

すでに大半の国で調査を完了したASEAN各国で痛切に感じたのは、科学的な証拠に基づく対策の重要性です。調査により従来推定の倍以上の人口10万対300を越える菌陽性結核の患者が発見されることも相



次いでおり、今世紀になって急速に高齢化する人口構造のシフトとあいまってアジアの結核はいまだにたいへん大きな問題です。しかしその反面、DOTSを採用し患者への服薬支援を強化した国では多剤耐性結核の出現が最小限に止まっているなどうれしいデータもでてきています。

これらも調査結果を評価資料として終わらせるだけでなく、いかに各国の結核医療の改善に役立たせるかという処方箋を書く、また政策指針をつくるお手伝いをするというのが、国際機関の専門家として単なる技術援助を越えた役割です。

こんなはずではなかったという、忙しさの積み重ねでWHO本部勤務7年目に突入しました。それでもヨ

ロッパで暮らした多くの皆さんが伝えるように、夏と年末年始には少なくとも2週間は休むのはあたりまえです。また金曜日の夕方からでもヨーロッパの大半に簡単に飛んで週末の小旅行を楽しめる、モンブラン、マッターホルン、アイガー・ユングフラウの展望台は日帰りドライブの範囲というジュネーブの地の利を活かして生活を楽しんでいます。国連機関の職員は、先進国の公務員に劣らないという待遇規定となっており、日本より充実した国連年金制度や、年間30日の休暇の消費が促進されていることなどを考えるとけっこう悪いものではありません。

WHOの日本人スタッフは厚生労働省や関連機関からの出向者が多いのも事実ですが、開発途上国でのプロジェクトを通じて知己を広めたことや、各種の委員会・諮問会議などに日本から積極的に参加することをきっかけに、採用される専門家も少ない数ではありません。さて、2012年度の千

葉大学校友会の総会での講演にお招きいただいた際にもお話ししたのですが、千葉大学の「母港」としての存在が、私がいまさまざまな国の結核対策への関りを支えてくれました。いざとなれば千葉に帰ってくれば、生活も含めて何とかなるといふ思い、酒を飲みながら話を聞いてくれる職場の先輩・後輩、同窓・同門の先生方がいるということは大きな支えでした。お世話になってきた先生方に、厚くお礼申しあげます。しかし最近ジュネーブにインターンや見学に来る日本の若い先生方からは、国際協力には関りたいが、大学や組織を離れて根なし草になってしまうのは不安だという悩みをよく聞きます。亥鼻同窓会館が新装されますが、成田から飛び立つて行く若者の精神的な支柱になるような千葉大学で在り続けて欲しいとお願ひして稿を終えたいと思います。

「なおインターンシップ、見学など希望の方は、onozaki@whoint.までメールをお寄せください。出張で不在のため失礼する事も多いかと思いますが、できるかぎり対応させていただきます。」

公立千葉病院付属 医学教場設立の経緯

石 出 猛 史 (昭52)

はじめに

千葉大学医学部の起源は、明治7年(1874)千葉町に創立された共立病院とされている。また、医学教育・医師養成機関としては、共立病院を発展・改称させた公立千葉病院に付設された、医学教場を最初とする。

医学教場設立の経緯について、『千葉大学医学部八十五年史(昭和39年刊)では、『明治9年(1876)県から2600円の交付があったので、新たに病院を建設・改称して』院内に修行年限3年の医学教場を付設し』と、簡略に記されているが、単純に事が運ばれたわけではない。

交付金の支給・新病院の建設・医学教場の付設計画などは、すべて初代千葉県令(知事)柴原和(1832-1905)による、千葉県の医療行政の一環として遂行されたものである。本稿では、千葉県の資料などから、医学教場設立の経緯について検証する。

明治新政府の医療政策

明治政府内で、強力に西洋医学の採用を唱えたのが、長州藩士大村益次郎であったといわれている(『懐旧九十年』石黒忠恵著)。医学教場について述べる前に、明治初頭に行われた医事行政について、時間を追って概観する。

(明治6年6月15日)太政官より文部省に、医制の取調が命ぜられる。(同月)全国の府県に、管内の医師および薬舗の状況を調査させる。(同7月)病院設立の状況を調査させる。(同12月27日)文部省より太政官に、医制発布の具申がされる。(明治7年8月18日)文部省より東京府に、『医制七十六カ条』を発布。(同9月)京都・大阪の二府に、『医制七十六カ条』を発布。

『医制百年史(厚生省医務局編)によると、その内容は、(1)衛生行政の目的及び機構(2)医学教育(3)病院(4)医師・産婆・鍼灸業(5)薬事の五つの分野について、施政方針を定めている。

医学教育については、各大学区毎に医学校一校を設けて、病院を付属させること、医学校の入学資格・教科目などについて定めている。病院について、公私立病院の開設には文部省の許可が必要であること、院長は医師免許を所持する者でなくてはならないとしている。医師についても、医業に従事するためには、開業免許を所持してはならないことが明記されている。しかしこれは施政方針で、即実行に移されたわけではなかった。

(明治8年2月10日)医術開業試験の実施について、文部省から三府に布達。(同5月14日)『医制改正全五十五カ条』を発布。この改正された『医制』では、医学教育に関する事項が削除されている。(同6月)衛生事務が文部省から内務省に移管され、衛生行政と医育行政が分離された。(同9年1月12日)各県に対して、医術開業試験の実施に関する達が布告される。(同3月3日)『公立私立病院設法及願書式』を各府県に布達。

公立病院の設立については、内務省の所管となった。以上が、公立千葉病院が発足した当時、国が進めていた医療制度の概略である。

公立千葉病院付属医学教場の設立過程について、紹介する。

医学教場の設立

(明治7年7月)千葉町に病院を設立するにあたり、三井組などに献金を要請。

(同20日)共立病院規則を制定。(同8月1日)共立病院で医師2名により、診療を開始。(同23日)第二回千葉県議事会(県議会)で、議員河野通樸の発議による、医学教場設立案が採択された。

(同8年2月)柴原和から文部省に、これまで東京医学校に提供していた解剖用の遺体について、今後数体を共立病院に下付して欲しいという要望が出されて受理された。

(同9年1月6日)県より内務卿大久保利通宛に、『公立病院設法願書差出候儀二付申上書』を提出。(同20日)前記『願書』が受理許可された。(同6月19日)内務省宛に、『医学教場並医学講習所経費課出之儀二付同』を提出。医学教場と医学講習所(従来から開業している漢方医を対象として、洋式医学を修得させる機関)の運営費用として、開業医から賦課金を徴収したいという内容である。(同10月31日)『公立千葉病院々則并医学教場規則及び講習所規則』を制定。(同11月9日)『千葉病院医学県費生規則』を定める。(同15日)公立千葉病院開院。

(同10年1月)県費生17名・私費生40名を以て、付属医学教場が始業する。(同4月11日)内務省に宛、『育児資金拝借之分衛生費へ拝借之儀二付同』を提出。(同13年6月)第一期生18名が卒業。

共立病院で診療が開始された翌明治8年10月、県令柴原和は『縣治方向』を公にした。議会のこと、民費のことなど20項目にわたって、その施政方針を明らかにしたものである。医療については『衛生のこと』という項目で、5つの目標を掲げている。

(1) 千葉県内に近代的医療を普及させるため、県内の医師を教育し、旧来の治術と薬舗の習慣を改める。(2) 経済力に乏しいなどの理由から、医学の修行ができない子弟の教育を援助する。(3) 伝染病に対する、予防法・治療法を確立する。(4) 藥物検査・劇薬・毒薬の取締方法を確立する。(5)

県民に摂生健康維持の方法を教育する。さらに県内各所に病院を設けて、これら5項目の普及に役立たせたいとしている。医学教場については、既に設立に向けて着手されているので、触れていないのである。

しばしば千葉県と比較の対象とされる埼玉県では、千葉県で医学教場に生徒を受け入れる前年の明治9年4月、浦和に設立された埼玉県医学校で講義を開始した。同12年には診療所も併設され、後に県立病院に拡充された。また熊谷にも分院が設置された。

同11年12月医学校第一回生8名が、翌12年には二回生25名が卒業した。しかし県費に対する、医学校の運営費の負担が大き過ぎるという理由から、同12年6月23日第一回埼玉県会で、その予算が否決された。このため同年8月18日医学校は閉鎖された。また熊谷の分院は同14年に、本院も同23年に廃止された。埼玉県における医師養成と病院運営事業は、発足後わずか14年で消滅した。

埼玉県が医療制度の構築に失敗した理由として、経費の問題の他に、県会議員の医学医療に対する理解の不足、県会議員の官僚に対

しては、既に設立に向けて触れていないのである。



Global

世界の最先端技術をもとに日本でも医薬品開発に努め実績を築いています。

医療の「A」から「Z」まで。

AstraZeneca

アストラゼネカ

する反発、県内における南
北県民の対立などが挙げら
れている。

明治政府の布達と、公立
千葉病院付属医学教場設立
の進捗を経時的に比較する
と、三府に「医制七十六カ
条」が布達される以前、既
に共立病院で診療を開始し
ている。病院の設立にあた
っては、三井組（後の三井
財閥）、千葉町・登戸村・寒
川村の有力者らに献金させ
ている。病院の開設・診療
開始は、洋式医学を認識さ
せるのに役に立ったのであ
う。

東京府に「医制」が布達
された直後には、県議会で
医学部の設立が可決されて
いる。これらの一連の経緯
は、県議会・県民とも病院・
医学部の運営に、積極的に
賛同する意思表示ととられ
ることになったであろう。

柴原和は、病院・医学校
の運営資金を捻出するため
に、従来開業医に賦課金を
課し（明治9年1月19日文
書）、国から下付された育事
資金を、病院・医学教場の
運営資金に流用することを
願ひ出て、許可されている
（明治10年4月11日文書）。

柴原和は、運営資金の調達
にも、様々な工夫をこらし
ていたのである。
これらの事情を勘案する

と、医療事業を遂行する上
で、柴原和の周囲に対する
巧みな対応が推定される。
埼玉県の事例と比較すると、
これも千葉県で成功した大
きな要因となったであろう。

柴原和が県令を務めてい
た期間（1873—188
0）、千葉県で遂行された医
療に関する事業は、県立病
院と医学教場の設立・運営
だけではない。

（一）県内各郡に医学講習
所を設けて、従来開業医（漢
方医）を対象として、洋式
医学を教育し、明治13年（1
880）までに、一気に3
32名の西洋医を誕生させ
た。出典は詳らかではない
ものの、明治22年（188
9）埼玉県内の開業医は6
66名で、うち530人が
漢方医という記述がみられ
る。

（二）千葉病院の分院を、
銚子・船橋・松戸（後に銚
子・木更津・館山）の三カ
所に設けた。

（三）種痘・コレラに対す
る疾病対策がとられた。

明治11年1月、柴原和は
『縣治実践録』を公表して、
自己の施政評価を行ってい
る。「衛生のこと」で、『縣
治方向』において示した方
針は、ほぼ達成したとして
いる。
公立千葉病院と付属医学

教場、後身の県立甲種医学
校の運営を成功させた事が、
後の国立第一高等学校校医
学部への誘致の際に、有利に
働いたことは想像に難くな
い。

その成り立ちを比較する
と、東京大学医学部を国策
会社としたなら、千葉大学
医学部は地場産業といえよ
う。現在国際的に活躍して
いる本邦の企業には、その
発祥が地場産業であったも
のが少なくない。公立千葉
病院付属医学教場の成立過
程を振り返ると、指導者が
抱く理念と、それを推進す
る情熱と、実行力がいかに
必要かが判る。

資料
「千葉大学医学部前史
— 共立病院・公立千葉病
院時代」
石出猛史 千葉医学2
011
「初代県令柴原和の
医療事業における業績」
石出猛史 千葉県の文
書館2013
「公立千葉病院医学教場」
石出猛史 千葉医学2
013

千葉医学雑誌89巻6号 2013年12月

症 例
ビスホスホネート長期服用例に発生した非定型大腿骨幹部骨折の検討
野中秀規 土屋恵一 北崎 等 米田みのり 新井 玄

千葉医学会奨励賞
分子イメージングによる変性性認知症の病態解明 島田 斉
学 会

第1247回千葉医学会例会・第2回臨床研修報告会
第1255回千葉医学会例会・第33回歯科口腔外科例会
第1263回千葉医学会例会・第30回千葉精神科集談会

OAP 要旨
多変量pooled logistic 回帰分析の応用による日本人男性労働者の低HDLコレ
ステロール血症発症に対する血清高感度CRP値の影響評価
能川和浩 坂田晃一 大石充弘 田中久巳彦 諏訪園靖
IKK2によるFcεRI誘導性脱顆粒の制御 鈴木浩太郎
編集後記 織田成人

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper
Original Paper
Association of high-sensitive C-reactive protein with the development of
hypo-high density lipoprotein cholesterolemia using a pooled logistic-
regression analysis of annual health screening information from male
Japanese workers
Kazuhiro Nogawa, Kouichi Sakata, Mitsuhiro Oishi,
Kumihiko Tanaka and Yasushi Suwazono

The Chiba Medical Society Award (2013)
Critical roles of IKK2 in mast cell degranulation Kotaro Suzuki

第六回（2014年度）千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について
第七回 ちばBasic & Clinical Research Conference開催のお知らせ
89巻総目次・索引

千葉医学雑誌89巻5号 2013年10月

症 例
肝外胆道閉塞を伴い頭蓋内出血で発症したAlagille症候群の1例
松浦 玄 東本恭幸 岩井 潤 村山 圭 堀江 弘 鈴木敏洋
合流部嵌頓結石に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の1例
牧野治文 山本謙司 永井基樹 藤川幸一 佐々木健
寺澤無我 小島成浩 大平 学 当間雄之 松原久裕

話 題
医学用語語源対話 Ⅲ 杉田克生 池田黎太郎
「第20回小学館ノンフィクション大賞」への道 松永正訓

千葉医学会奨励賞
慢性腰痛メカニズム解明と新規治療開発に関する研究 宮城正行
海外だより

感謝のシンシナティ留学記 野島広之
学 会

第1254回千葉医学会例会・平成24年度細胞治療内科学例会
第1261回千葉医学会例会・平成24年度第12回千葉大学大学院医学研究院
呼吸器病態外科学教室例会
第1265回千葉医学会例会・第28回千葉泌尿器科同門会学術集会

研究報告書
平成24年度猪之鼻奨学会研究補助金による研究報告書
OAP 要旨
難治性冠攣縮性狭心症にデノパミンの単独投与が有効であった1例
—その作用の薬理学的機序— 石出猛史
編集後記 龍岡穂積

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper
Case Report
A case of refractory vasospastic angina pectoris treated effectively with
denopamine alone - Pharmacological mechanism of its action -
Takeshi Ishide

日本医書出版協会認定店



ホームページ リニューアルしました!!

〒260-0856 千葉市中央区亥鼻2-2-5 TEL 043-224-7111 / FAX 043-224-8600

URL: <http://shigakushoten.co.jp> e-mail: mail@shigakushoten.co.jp

Facebook・Twitter 始めました

千葉日報社 萩原博 社長と語る — ゐのはな同窓会と千葉日報社との連携 —

2013年7月25日付けで、千葉日報社の社長に、萩原博様がご就任されました。萩原博様は、以前より、ゐのはな同窓会の活動にご理解があり、種々ご造詣も深い方です。

そこで、ご就任を機に、懇談の場を設けました。11月11日、京成ホテルミラマールにて、会長伊藤晴夫と副会長鈴木信夫が、千葉日報社広告局企画事業部の部長である加納仁様もご同席の上で、ゐのはな同窓会と千葉日報社との今後の連携に関して、ご意見を伺いました。

鈴木：本日は、千葉日報社代表取締役社長 萩原博様をお招きして、今後の連携・交流に向けて、懇談会を企画いたしました。それでは、司会役を鈴木が担当させていただきます。まずは、これまでの千葉日報社と千葉大学医学部ゐのはな同窓会（以下、ゐのはな同窓会）との関わりについて、伊藤会長よりお話を願います。

伊藤：ゐのはな同窓会では年3回会報を発行しております。発行部数は約8000部で千葉県内向けには約2000部です。最近、この会報の印刷を千葉日報社に発注しております。紙面も全面カラー化となり、会員の方々からは好評を得ておりまして、感謝申し上げます。また、最近はお同窓会報に加えて、ITを使いこなす若い会員に向けて、H

Pも立ち上げました。鈴木副会長のご努力もあり充実してきているところです。HP上では既に千葉日報社と同窓会の連携が行われております。HPについては鈴木先生にご説明いただきます。

鈴木：現在は千葉日報社のHPとリンクしています。また、会員の病院紹介を掲載していただくなど連携を深めているところです。今後のさらなる連携については、伊藤会長よりご提案などございますか？

伊藤：千葉日報社と連携できるところは大いにあると思っております。千葉日報社の新聞を拝見いたしますと、医療、介護に関する記事に力を入れているように感じました。この点でも連携はいろいろできると思います。例えば、同窓会員は千葉県

内に2000人くらいいますが、開業されている会員も多いので、待合室などにも千葉日報を配架することも一つではないでしょうか。提案としては、会員の皆様に千葉日報の購読を勧めたいと思います。千葉県は大きな県ですが、その県紙という点で、非常に重要な役割があると思いますし、期待も致しております。同窓会の行事などの記事、会員相互の連絡、広報等で連携できる方法があるのではないかと考えています。

医師を輩出し県民の健康や保健の軸となって貢献されていると思えます。ゐのはな同窓会の会員の皆さんは、県内等で地域医療や高度医療の第一線で活躍されておられます。

千葉日報社としては、そうした先生方に主として千葉県内の医療、保健、健康関係の最新情報を提供する点で、日々の医療活動の向上につなげていただくことが、報道機関としての基本的な役割であると認識しています。

また、縁があつて、千葉大学の医学部で学ばれた方々に、千葉を第二のふるさととして、常に関心を持っていただきたいと思います。おりました、そうした意識を喚起するような情報を発信していくことも務めであると思っております。

一方、地域医療に占める在宅医療の重要性、役割も高まっています。地域で頑張っている個人医院、診療所等を県民に紹介する意義もあると思ひまして、ゐのはな同窓会の協力でスタートしたのが「頼りになります街のお医者さん」という企画です。不定期ですが「医療新世紀」という紙面の中の一部に入れていますが、読者からの問い合わせも寄

せられています。こうした企画は継続することが重要です。積極的な協力を願います。

また、インターネット環境も飛躍的に発展して、情報が大爆発する時代です。その中から、正しく適切な医療、健康情報を判りやすく県民に発信する必要があります。伊藤先生の執筆によるコラムも新しく始まりましたが、今後の成果に期待しております。

こうしたゐのはな同窓会との連携による記事などは、必要な方々に届くことが重要です。そこで、千葉日報社と致しましては、ゐのはな同窓会のご協力を得て、なるべく多くの個人医院、診療所に千葉日報社の新聞が配架されることで、新聞の使命が果たされると感じております。

千葉日報社と致しましては、取材でいろいろな情報をご紹介するなど紙面でご協力を致したいと思っております。医療等は県民の関心の非常に高い分野ですので、正しい情報を県民の皆さんにお伝えしたいと思っております。ゐのはな同窓会との連携に期待しているところで、鈴木：いろいろのご提案を

ありがとうございます。伊藤：私からも感謝いたします。なお、ゐのはな同窓会は千葉大学の卒業生ばかりではなく、他大学卒業生の先生方も多くおられます。萩原：そうですね。いずれに致しましても、千葉に縁があつてこられた先生方にも、千葉にもつと関心を持っていただきたいと思います。

伊藤：千葉県は大きな県ですが、逆にも首都圏にありますが、千葉県に近すぎるので、皆さん東京に向いているといった不利な点もあるかと思ひます。そうした点でのご苦労はありますか。

萩原：「千葉都民」のことでしようか。一般的な千葉都民のイメージは、仕事は東京、千葉には寝に帰ってきているだけで地元の出来事に関心がないといったところでしょうか。私も都内から市川に転入してきたので、当時は千葉都民でした。市川市民の自覚はあつても千葉都民の意識は余りありませんでした。

千葉都民は確かに頭の痛い問題です。ただ、これからは超高齢化社会に突入するので、これまでは違い、定年後は千葉県が終の住処となるのではないのでしょうか。そうなれば、自ずと地

域に関心を持つ、或は持たざるを得なくなると思ひます。そうした方々の関心はどんなことか、地方新聞ならではの役割は何かを捉えて、紙面や主催事業などで対応していきたいと考えております。

若い方々には、新聞を読まない無読層が大変な勢いで増えています。しかし、紙媒体は見ないけれど、HPは見るという方に向けて、千葉日報のHP「ちばとび」を来年4月頃にはリニューアルして充実していこうと思ひます。

鈴木：同窓会員の先生方にも自費出版をされる方がおられますが、出版等に関しては、どのようにお考えですか？

萩原：自費出版に関しては、いつでもご協力をさせていただきます。鈴木：高齢化社会に關してですが、同窓会の中には介護施設の経営をしている先生方も多くおられます。そうした情報提供はいかがでしょうか？

った状況では読者も困ると
 思います。広告ではなく、
 介護施設の報道をする場合
 には、取材等に基づく明確
 な根拠が必要ですので、慎
 重に検討したいと思います。
 伊藤・特養は入りにくいとい
 われているのですが、知り
 合いの経営者に聞いたと
 ころ、近頃は特養の数も増
 えているので、経営も大変
 だと聞きました。地域によ
 るとは思いますが。
 鈴木・みのはな同窓会とし
 て、「頼りになります街の
 お医者さん」の紹介をする
 ときには慎重に選択してお
 ります。介護施設は県民の
 ニーズも高い分野であると思
 われますのでご検討下さ
 い。
 萩原・高齢化ばかりではな
 く少子化の時代でもあり、
 新聞社として情報を提供す
 る側から、病院の役割とし
 て病児保育の必要性も感じ
 ております。子育て世代の
 ニーズも高いと感じており
 ます。
 鈴木・大変有意義な時間を
 過ごさせていただきました。
 みのはな同窓会員が超高齢
 化・少子化社会にどのよう
 な役割を担い貢献できるの
 か、今後も千葉日報社と連
 携していきたいと思いま
 す。本日はありがとうございました。

夢をカタチに「自費出版のお手伝い」

写真集や画集、随筆や小説、記念誌、論文集など、ジャンルを問わずに書籍製作のお手伝い



千葉日報社では、新聞編集のノウハウを生かした自費出版のお手伝いもしております。全国流通の書籍として発行することも可能です。お見積りは無料、お気軽にご相談をお待ちしております。

お問い合わせ先

株式会社千葉日報社 広告局企画事業部 みのはな係

〒260-0013千葉県千葉市中央区中央4-14-10

TEL 043-227-0066 FAX 043-224-3662

ちばとび <http://www.chibanippo.co.jp/>

オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>

同窓会会員の活躍等をインターネット上で配信する「オンライン会報」では、10月より総合目次の追加とMACユーザー対応の動画配信を開始いたしました。そこで今回は、追加された項目と2013年10月前半までに新しく配信されたものをいくつか紹介します。なお、配信中の「同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介」では、2013年以降、千葉日報紙上で「頼りになります街のお医者さん」とも連動させて、千葉県内の病院・医院・診療所を、掲載可能としております。動画の画面と記事の両方でお楽しみ下さい。本紙面では、これまでの千葉日報紙上で紹介された記事の2件の例を紹介します。オンライン会報をより身近に感じていただけるよう、今後も続々とホットな情報を配信してまいります。皆様からのご提案を、心からお待ちしております。

Renewal!!! 総合目次を作成しました。

オンライン会報 総合目次

Windowsで動画をご覧になる場合はInternet Explorerを推奨します。
Macintoshで動画をご覧になる場合はプラグインソフト「Flip4Mac」をインストールしてください。
>>ダウンロード >>インストール方法
ただし「* Mac/スマホ対応*」があるものは、プラグイン無しでご覧になれます。

- ・病院紹介
- ・同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- ・生涯学習講座
- ・求人・求職
- ・インタビュー
- ・国際交流
- ・都道府県医師対策
- ・オンライン書庫
- ・話題
- ・同窓会
- ・クラス会・他大学等
- ・「ほっとひといき」ちば通信(千葉日報)
- ・キャンパス便り
- ・協賛企業からのお知らせ

Renewal!!! ご迷惑をおかけしておりましたが、掲載例のように

*** Mac/スマホ対応*** と表示されているものについてはMacユーザーの方にもプラグイン無しで動画をご覧いただけるようになりました。

オンライン書庫



ライフセラミックスから学ぶ健康の泉
—放射線・生活習慣病編—
・「目次」を読む・「はしがき」を読む
・ライフセラミックス化学を読む
ライフセラミックス *** Mac/スマホ対応***
ライフセラミックス処理飲用水ペットボトル
*** Mac/スマホ対応***

お知らせ
同窓会員が千葉県内で経営する病院・医院・診療所については、オンライン会報および千葉日報との両メディアでの連動による紹介が可能です。
詳細につきましては、同窓会事務局までお問合せ下さい。
Tel : 043-202-3750



三枝病院の三枝一雄理事長

富津市を中心とした医療ニーズに対応しようと、1968年に開院。三枝一雄理事長および三枝奈芳紀院長の親子二代の医師が二人三脚により、外科・胃腸科の専門病院としての役割を担ってきた。また、循環器内科、肝臓内科、整形外科、あるいは大腸肛門科の専門医による専門外来や、慢性疾患者への管理栄養士による食事指導などにも心懸けている。

さらに老人医療やターミナルケアにも取り組む。市民が地域で安心して暮らせるようにと、老人保健施設を併設。居宅介護支援事業も展開する。

深い人間愛に基づく医療の展開が信条。三枝理事長は「モロロジ科・整形外科・泌尿器科・循環器内科。専門外来として内分泌科・肝臓内科、大腸肛門科」
▽病床数 32床▽受付時間 8時30分～11時30分、15時～17時30分
▽休診日 水曜日▽住所 富津市青木1641(JR内房線青堀駅から富津公園行きバス、三枝病院前で下車)▽電話 0439(87)0650

◆診療案内▽外科・内科・胃腸科
◆三枝一雄理事長プロフィール
千葉大学医学部卒。同大第一外科入局、文部教官同大助手を経て開業。95年、医療法人社団三友会を設立し理事長に就任。県モロロジ協議会会長などを経てモロロジ研究所顧問。



三友会三枝病院

頼りになります 街のお医者さん

人間愛を基盤に診療

地域病院 医院紹介

7

同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介

神経難病を中心とした在宅医療



医療法人社団豊心会
中野内科クリニック
院長 中野義澄
[2013.7.29掲載]

地域に根差した優しい精神医療を目指して



医療法人同仁会
そが西口クリニック
顧問 佐藤壹三 (写真左)
院長 古田多真美 (写真右)
[2013.7.29掲載]

生涯学習講座

腰痛の予防と対策

千葉市民文化大学における講演・2013.6.19開催

1. 腰痛（腰）の仕組み・代表的な腰痛疾患
2. 腰痛の予防と治療・ロコモティブシンドローム



高橋和久 (千葉大学大学院医学研究院整形外科学 教授)
[2013.10.1掲載]

* Mac/スマホ対応*

第38回医工学研究会における講演・2013.4.26開催

直腸癌に対する先進的の外科治療開発
—機能を残し、やさしく治す—



(独) 国立がん研究センター東病院
大腸外科 医長 伊藤雅昭
[2013.7.29掲載]

第89回千葉医学会学術大会における講演・2013.6.18開催

特別講演 千葉県の医事紛争処理システムは日本一



千葉県立保健医療大学学長
千葉大学名誉教授
山浦 晶
[2013.7.29掲載]

招待講演 脳神経外科医療 現在・未来



千葉大学大学院医学研究院
脳神経外科学
教授 佐伯直勝
[2013.7.29掲載]

キャンパス便り



-will-11th anniversary
未来へ向けて亥鼻祭を発信しよう!!
千葉大学医・薬・看護学部大学祭
千葉大学亥鼻祭2013年度実行委員会
委員長 小野亮平
[2013.10.15掲載]

* Mac/スマホ対応*



千葉大学医学部後援会
平成25年度総会
平成25年6月22日 (土) 午後1時～
三浦正義 (後援会会長) [2013.10.1掲載]

* Mac/スマホ対応*



済生会習志野病院での手術の様子



山森秀夫院長

山森秀夫院長は「医師の皆さんには出来るだけ救急車は断らないように再三、お願いしている」と話す。現在では年間3と意欲的に話す。

済生会習志野病院は、人口が集中する船橋、習志野、八千代の3市と千葉市花見川・美浜の両区から主に患者が来院する東葛南部の東南地区を受け持つ。2001年6月に国立習志野病院の移譲を受けて済生会習志野病院が誕生。これを契機に救急医療の受け入れに踏み切った。

済生会習志野病院

高度専門医療と救急医療



047(473)1281
済生会習志野病院 (下車) 電話
沼駅北口からバスで15分、「済生会習志野病院」下車

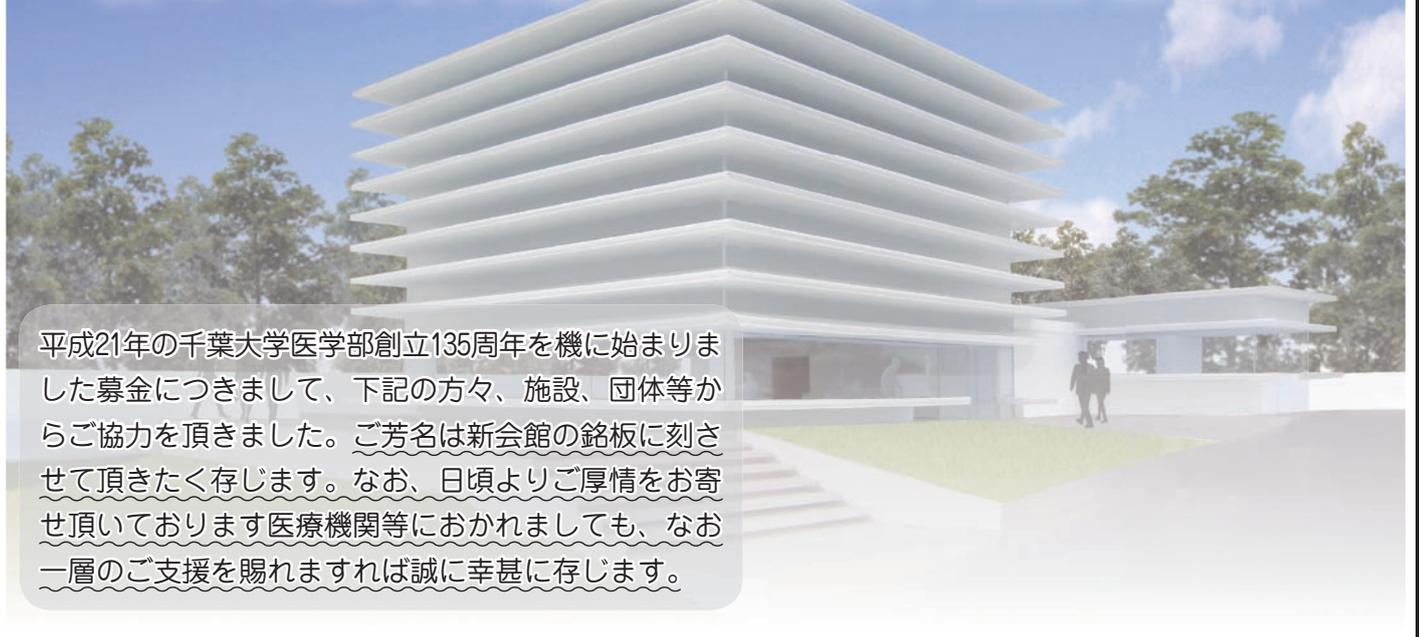
山森秀夫院長は「医師・看護師をさには出来るだけ救急車は断らないように再三、お願いしている」と話す。現在では年間3と意欲的に話す。

外科栄養学も専門分野の一つで、01年10月に栄養サポートチームを発足させた。「入院患者の4割は何らかの栄養障害がある」として、患者の疾患治療と同時に栄養的な治療を開始した点も特徴だ。

地域病院
医院紹介

(平成25年11月30日現在)

新みのはな同窓会館設立事業募金状況



平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に始めました募金につきまして、下記の方々、施設、団体等からご協力を頂きました。ご芳名は新会館の銘板に刻させて頂きたく存じます。なお、日頃よりご厚情をお寄せ頂いております医療機関等におかれましても、なお一層のご支援を賜れますれば誠に幸甚に存じます。

高額寄附者ご芳名

(敬称略)

300万円以上ご寄附

企業・法人等

財団法人 同仁会

200万円以上ご寄附

企業・法人等

(株) 千葉京成ホテル

鳥居薬品(株)

医学部後援会

医学部後援会

同窓会員

矢野浩二郎(平11)

100万円以上ご寄附

医療機関

旭神経内科病院

(医) 大平会嶺井第一病院

〔医〕川鉄千葉病院

千葉中央メディカルセンター

(医) 船橋整形外科病院

(医) 志方記念三木クリニック

企業・法人等

アステラス製薬(株)

キッコーマン(株)

小太郎漢方製薬(株)

第一三共(株)

武田薬品工業(株)

田辺三菱製薬(株)

中外製薬(株)

(株) ツムラ

ファイザー(株)

千葉大学医学部附属病院

臨床医学研究助成会

医学部後援会

小埜 清

同窓会員

土屋 與之(昭24)

羽生富士夫(昭29)

谷嶋 俊雄(昭34)

谷嶋 つね(昭35)

加藤 昌義(昭36)

(医) 三橋病院

(医) みはま病院

企業・法人等

SMBCD日興証券(株)

赤星工業(株)

旭化成ファーマ(株)

あすか製薬(株)

アステラス製薬(株)

アストラゼネカ(株)

アルフレックスファーマ(株)

石井食品(株)

(株) 石渡商事

岩瀬薬品(株)

(株) ウチダ和漢薬

栄研化学(株)

エスエス製薬(株)

(株) エスアールエル

エーザイ(株)

岩倉 弘毅(昭37)

伊藤 晴夫(昭39)

今津 暉(昭40)

赤井 壽紀(昭43)

唐澤 祥人(昭43)

辛 秀雄(昭44)

中村 陽子(昭44)

大西久仁彦(昭47)

旭 俊臣(昭48)

早乙女 勇(昭48)

秋葉 哲生(昭50)

福井 博行(昭56)

白澤 浩(昭57)

土屋 広明(昭57)

角田 隆文(昭57)

仲野 公一(昭63)

岡本 和久(平2)

土井 茂治(平3)

小山 虎信(公衆衛生学)

エース損害保険(株)

エルメッドエーザイ(株)

大塚製薬(株)

(株) 大塚製薬工場

小野薬品工業(株)

科研製薬(株)

化研生薬(株)

鹿島建設(株)

勝又自動車(株)

(株) 北原防災

キッコーマン(株)

キッセイ薬品工業(株)

杏林製薬(株)

協和醗酵工業(株)

キリンファーマ(株)

グラクソ・スミスクライン(株)

クラシエ製薬(株)

クラシエ薬品(株)

京成建設(株)

(株) ケーヨー 京葉工管(株) 興和(株) 小太郎漢方製薬(株) (株) 小山商会 千葉営業所 佐藤製薬(株) サノフィ・アベンティス(株) (株) ザ・マンハッタン (株) サラト 沢井製薬(株) 参天製薬(株) (有) サン・プランニング (株) サンリツ (株) 三和化学研究所 (株) 志学書店 シエリング・プラウ(株) 塩野義製薬(株) 白鳥製薬(株) 菅原工芸硝子(株) (株) 正文社 ゼリア新薬工業(株) 第一三共(株) 大正製薬(株) 大日本住友製薬(株) 大鵬薬品工業(株) タカイ医科工業(株) 武田バイオ開発センター(株) 武田薬品工業(株) 田辺三菱製薬(株) (株) 千葉銀行 (株) 千葉京成ホテル 千葉中央会計事務所 千葉日産自動車(株) (株) 千葉薬品 中外製薬(株) (株) 銚子丸 塚本總業(株) (株) ツムラ	帝人ファーマ(株) テルモ(株) トリアエイヨー(株) (株) 東葛幸文堂 東京海上日動火災保険(株) 東和薬品(株) 富山化学工業(株) 鳥居薬品(株) 財団法人 同仁会 (株) ナリコー 成田山新勝寺 ニプロファーマ(株) 日本イーライリリー(株) 日本化学(株) 日本ケミファ(株) 日本新薬(株) 日本臓器製薬(株) 日本製薬(株) 日本たばこ産業(株) 日本アイシン・ゼルハイム(株) ノバルティスファーマ(株) バイエル薬品(株) (株) パイオニア 萬有製薬(株) ファイザー(株) 東日本旅客鉄道(株) 千葉支社 富士タクシー(株) (株) 富士フィルムメディカル 扶桑薬品工業(株) プリストル・マイヤーズ(株) 古谷乳業(株) ボーソー油脂(株) (株) ほてい家 ホテルグリーンタワー幕張 ホテルニューオータニ幕張 マイラン製薬(株) 丸石製薬(株) マルホ(株)	丸万壽司 三井ガーデンホテル千葉 三井住友海上火災保険(株) (株) ミノファージェン製薬 明治製菓(株) 持田製薬(株) (株) ヤクルト ヤマサ醤油(株) 山崎製パン(株) (株) ヤンセンファーマ ロート製薬(株) ワイズ(株) わかもと製薬(株) 千葉大学医学部 附属病院臨床医学研究助成会	医学部後援会 相原 教之 赤倉功一郎 安達 哲夫 荒木 拓次 飯田 豊 飯野 秀也 池内 英男 石神 博昭 石山礼美子 伊東 龍也 井福 正博 海村 昌和 太田 昌男 緒方 一 岡本 弘子 小野 文雄 笠間 昭彦 勝俣 賢二 狩野 直樹 上川床総一郎	川端 基彦 金子 浩一 加藤 誠 山田 雄一 山本 幸一 吉井 仁実	菊池 敏美 北爪 秀政 工藤 琢也 蔵田 昌子 黒川 道徳 小曾根卓朗 小関 洋男 小高 清 齊木 教朗 櫻井 茂 佐藤 恒明 鈴木 壽郎 杉浦 英一 高浦 和彦 高橋 恒雄 田中 清七 田島 啓二 坪井 良眞 富永 庸平 豊田 浩史 中川 康 中田 徹亮 奈良 謙司 林 英一 日野修一郎 平山 敏雄 廣瀬 俊夫 藤井 康史 藤田 邦臣 堀江 利彦 堀岡 才二 松岡 一 宮本 雅生 村井 健二 森口 毅 山田 好則 吉岡 雅之	岸野 光広 木下 富夫 熊谷 武久 栗原 俊夫 甲田 伸也 後藤 喜章 小西 敏郎 小林 洋一 酒井 雄一 佐藤 千鶴 下平 坦 須賀 秀晃 高橋 卓 竹本 修 橋 勝己 塚田 稔 遠山 高菴 豊田 弘 永井 玉枝 中川 洋一 名倉謙二郎 西織 哲大 東ヶ崎邦夫 平賀 幸弘 広沢 邦浩 福元 廣次 藤川 卓哉 堀井 宏志 前田 雅治 松田 一男 三田 信明 武藤大二郎 森 豊 八木 毅典 山田 好則 吉岡 雅之	吉澤 尚嗣 若松 英彦 和田 正英 渡邊 修 脇田 正実 与芝 真彰	医学部教職員等 環境影響生化学 鈴木 敏和 神経生物学 山口 淳 薬理学 坂下 育美 発生生物学 川内 大輔 免疫発生学 細川 裕之 山下 政克 救急集中治療医学 仲村 将高 放射線医学 川田 哲也 細胞分子医学 宮城 聡 臨床分子生物学 武川 寛樹 総合診療部 大平 善之 薬剤部 石井伊都子 先端和漢診療学寄附講座 関矢 信康 久永 明人 循環型地域医療連携システム学 馬杉 綾子 病理部 谷澤 徹 千葉大医・旧助手会 事務部	同窓会員 清水 富雄 堀江 寛 新井 正 大磯 英雄 国井 光智 佐藤 壹三 萩野 裕 本間 三郎 昭22 家本 誠一 昭16 薬丸比呂志 昭17 倉田 博夫 浦野 英夫 下山 賢次 橋本 孝平 水間 正冬 昭17 吉田 芳樹 昭18 朝倉 忠孝 佐藤 進一 田中 進 昭18 川辺 敏 山田 悦朗 昭19 井出源四郎 清水 衛 平形 義人 昭19 池 二郎 山崎 衛 昭20 長田 浩 草間 隆 横地 尚 昭20 今島 浩 昭21 鶴澤 壽	横江 康夫 渡邊 彦憲 横江 康夫 森島 猪二 西澤英三郎 藤江 寛忠 昭23 板垣 修造 伊東 和人 海老原恒雄 窪谷 満雄 多賀谷 譲 西堀 乙彦 藤崎 滋 宮崎 隆次 昭23 梅沢 亮 大平 馨 香取 郁雄 佐藤希志雄 鈴木 東洋 橋本 眞 水沼 三郎 渡辺 兼司 昭24 石谷 治彦 君島善次郎 國府田幸夫 佐々木宣明 鈴木 直基 田中 光 土屋 與之	石原 眞 郡山 春男 齋藤 豊一 中島 浩二 古江 増蔵 三宅 和夫 石郷岡 寛 清水 健三 新田 実男 福島 溪二 鷺田 一博 一色 重義 上野 高次 九島 璋二 斉藤 嘉一 奈良 四郎 平岡 眞 前田 裕 和田 寛 大野 信次 柿栖 米夫 斎川 俊一 三瓶 善康 竹内 盈 中山 重男 宮入 繁夫 大林 泰 木村 康 小林 準三 鈴木 文男 高野 俊男 月岡 道雄 寺島東洋三
--	--	---	--	---	---	--	---	--	---	--	--

山口 宗彦	若新 政史	島 毅	曾野 文豊	高瀬 靖広	瀧澤 弘隆	田中 則好	柄木亮太郎	西村 和子	伊藤 ルミ	日景 高志	石神 敏子	山浦 晶	吉川 広和	昭41	天羽 達郎	飯島 幸雄	大島 仁士	大塚 明彦	若新 洋子	神谷 努	鈴木 博一	白井 鎮夫	清水 完次朗	重松 秀一	坂田 晃康	今野 貞夫	小林 俊憲	木内 政寛	河井 克仁	貝田 豊郷	岡野 照美	大塚 嘉則	遠藤 毅	上原 朗	飯田 義信	阿部 一憲	秋草 克彦	昭39	渡部 浩二	山口 宗彦																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
辛 税所 京碩	荻谷 宏光	小澤 英郎	大木 弘侑	漆原 健資	遠山 昌人	青木 敬介	昭40	山本 弘	山下 明美	矢島 義忠	村上 信乃	万本 盛三	平形 昭代	根岸 敬矩	永山 惠美子	千葉 胤道	高沢 博	鈴木 守	清水 天	重松 秀一	坂田 晃康	今野 貞夫	小林 俊憲	木内 政寛	河井 克仁	貝田 豊郷	岡野 照美	大塚 嘉則	遠藤 毅	上原 朗	飯田 義信	阿部 一憲	秋草 克彦	昭39	渡部 浩二	山口 宗彦																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
関谷 宗英	昭42	渡辺 寛	竜 良方	安江 万二	御園生正紀	福田康一郎	半澤 宣生	中村 宣生	永井 公大	塚本 嘉一	竹島 和夫	高山 和夫	鈴木 龍興	白濱 博	塩沢 博	原 輝彦	深尾 立	三浦 徹蔵	本村八恵子	山口 正敏	山下 武広	米満 道子	天海 照夫	今津 曄	海老沼光治	大本 恭平	冠木 徹彦	小島 莊明	崎山比早子	関谷 宗英	昭42	渡辺 寛	竜 良方	安江 万二	御園生正紀	福田康一郎	半澤 宣生	中村 宣生	永井 公大	塚本 嘉一	竹島 和夫	高山 和夫	鈴木 龍興	白濱 博	塩沢 博	原 輝彦	深尾 立	三浦 徹蔵	本村八恵子	山口 正敏	山下 武広	米満 道子	天海 照夫	今津 曄	海老沼光治	大本 恭平	冠木 徹彦	小島 莊明	崎山比早子	関谷 宗英																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
石井 従道	渡辺 一男	鎗田 努	溝口 勝	福田 淳	平澤 博之	市川 清子	中島 龍一	飯田 文隆	田中 豊	竹内 豊	高橋 淳一	鈴木 豊	島田 哲男	里村 洋一	三枝 俊夫	小林 英夫	菊池 義公	柏原 英彦	落合 武徳	王子 明	飯島 一彦	新井 茂郎	渡邊 勝巳	昭41	天羽 達郎	飯島 幸雄	大島 仁士	大塚 明彦	若新 洋子	神谷 努	鈴木 博一	白井 鎮夫	清水 完次朗	重松 秀一	坂田 晃康	今野 貞夫	小林 俊憲	木内 政寛	河井 克仁	貝田 豊郷	岡野 照美	大塚 嘉則	遠藤 毅	上原 朗	飯田 義信	阿部 一憲	秋草 克彦	昭39	渡部 浩二	山口 宗彦																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	忍頂寺紀彰	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	忍頂寺紀彰	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	忍頂寺紀彰	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	忍頂寺紀彰	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	忍頂寺紀彰	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	忍頂寺紀彰	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	忍頂寺紀彰	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	忍頂寺紀彰	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	忍頂寺紀彰	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	忍頂寺紀彰	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	忍頂寺紀彰	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	忍頂寺紀彰	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	玉井 輝章	滝川 弘志	諏訪 敏一	鈴木 昭一	佐野 元昭	佐藤 英樹	神津 玲子	國保 能彦	栗山 喬之	川村 功	加藤 之康	鹿島 孝	太田 東吾	岩間 汪美	一瀬 正治	石井 豊信	赤尾 建夫	青木 靖雄	昭43	吉野 紘正	安田 耕作	森田 忠昭	宮本 忠昭	藤澤 武彦	日笠山一郎	林 龍哉	野崎 忠信	西牟田敏之	中村 謙介	宮坂 齊	田中 弘一	高崎 健	鈴木 一郎	倉田 矩正	能勢 晴美	片倉 透	大沼 直躬	板谷 喬起	伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	冠木 敦子	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫

松谷 和徳	増田 政久	野村 文夫	西山 徹	高橋 道子	永瀬 謙史	内藤 正文	戸塚 清一	高林克日己	勝呂 慶子	篠遠 彰	佐々木 健	齊藤万比古	小出 義雄	北川 道隆	河内 文雄	上村 公平	大森 景文	上田 志朗	安東 昌夫	麻生誠二郎	秋葉 哲生	昭50	渡辺 順子	森川 眞一	渡辺 博子	長谷川 純	西山眞理子	中村 文子	土佐 純一	田町 誓一	田中 眞	田中 秀之	武井 泉	鈴木 亮二	佐藤 武幸	五月女直樹	木村 純
宮内 大成	増村 道雄	本田 徹	野積 邦義	登坂 薫	小林けい子	中尾 照逸	富谷 久雄	土佐 寛順	隆 元英	篠宮 正樹	佐野千寿子	佐伯 直勝	後藤 信昭	木村 道雄	川口 英昭	鴨下 博	沖本 光典	大塚 裕	入江 氏康	飯田 眞司	秋谷 徹		弓削 一郎	三上 恵只	鳩貝 文彦	野村 恭子	西山 裕孝	飛澤 彰	南郷 晃	田邊 政裕	田中 正	田中 順子	高田 善治	鈴木 洋一	桜庭 庸悦	小林 裕夫	
中村 勉	塚田 和美	高田 俊一	鈴木 久史	小林 純	久保田浩一	北澄 忠雄	香村 衡一	尾崎 正彦	稲田 晴生	五十嵐辰男	昭52	山本 和夫	八木橋美範	皆川 秀夫	松谷 正一	蒔田 国伸	布施 秀樹	菱沼 静男	南波 美伸	寺野 隆	塚本 剛	篠塚 正彦	斎藤 典男	小松 健祐	伊古田裕子	川村 健二	門山 周文	小野 和則	小野 純一	岩崎 秀昭	森本 典子	赤嶺 正裕	昭51	山本 博憲	山岸 文雄	村野 俊一	宮崎 彰
中山 大典	中沢 敏信	高橋 啓一	須田 孝雄	鈴木 彰	小林 彰	木村 正幸	香村 玲子	海宝 雄一	大迫 政智	奥野 妙子		森 順子	松村 勉	萩田 順子	紅谷 明	姫野 雄司	林 春幸	中山 朝行	寺崎 太郎	高橋 和久	佐藤 兼重	坂本 薫	児島 孝行	黒崎 知道	河合 誠義	鏡味 勝	小野 元子	大塚 芳克	井坂 茂夫	秋田 徹	横須賀 收	山本日出樹	森野 正明	宮崎 勝			
下条 直樹	近藤 福雄	小林 進	掛田 充克	大内純太郎	石毛 俊行	五十嵐忠彦	昭54	渡邊 浄	若林 正治	吉原 俊雄	吉澤 卓	山上 岩男	森 照男	三瀨 忠道	野々村裕子	仲田 勲生	得丸 幸夫	寺井 勝	武永 博	角南 兼朗	菅沢 寛健	小林 敏生	川俣 泰男	石川てる代	萩野 幸伸	宇田川晃一	上田源次郎	石川 洋	新井 貞男	昭53	山口 一	松前 孝幸	升田 吉雄	古川 斎	兵頭 明夫	林田 和也	
白土 英明	篠遠 仁	小林 繁樹	軍司 祥雄	萬 伸子	今関 文夫	伊澤 英次	伊丹 純	足立 武則	昭56	渡邊 昭彦	吉永 勝訓	宮崎 三忠	前田 勝久	深澤 一雄	氷見 桂司	蓮沼 和男	野田 將道	永井 康弘	十川 康弘	亀井太美子	砂田 莊一	杉原 茂孝	潮平 芳樹	栗原 和男	神崎 哲人	雄賀多 聡	上杉 健哲	有我 隆光	昭55	渡辺 恒家	宮本 恒彦	林 北見	宮崎 泉	巽 浩一郎	高野 正一	鈴木 良一	杉浦 信之
繁田 美香	小林 史朗	高 在完	亀井 克彦	笠松 紀雄	岡 陽一	岩崎 伸行	伊藤 隆	井関 徹		羅 智靖	湯口 恭利	松井 英雄	藤田 幸弘	平賀 京子	氷見 尚武	橋本 俊男	長島 通	島居 俊男	土田 豊実	田中 篤	須藤 義夫	柴橋 康文	斎藤 博之	久木田親重	長 雄一	植松 武史	石橋 巖		吉田 弘道	福田 幾夫	中村 眞人	鶴田 好孝	田川 雅敏	角南 祐子	杉田 克生		
岩立 康男	池田 政文	昭58	山本 恭平	山口 卓秀	守月 理	丸山 尚嗣	松本 玲子	中村 清吾	角田 隆文	土屋 広明	田宮 敬久	佐野 信昭	龍野 一郎	白澤 浩	下山 直人	篠崎 克己	木村 文夫	海保 隆	岡田 淳一	ピアス洋子	天野 穂高	昭57	吉川 正治	森永 哲文	望月 眞人	三浦 正義	松村竜太郎	福武 敏夫	松本 俊一	長谷川 潔	中村 広志	友利 秀憲	武内 重康	瀧口 正樹	高田 博之	鈴木 裕子	清水 俊行
加藤 雄一	石川 信泰		和久 真一	山西 友典	安原 一彰	古川 敬芳	丸 宏昭	幡野 雅彦	中澤 功	豊泉惣一郎	丹沢 秀樹	高原 正信	酒井 直美	角谷 明子	島田 薫	下山 真彦	小森 功夫	川島 利彦	小川 真	大嶺 靖	岩井 直路	伊豫 雅臣	磯野 史朗	赤倉功一郎	昭59	横内 敬二	山崎 正志	宮副 一郎	西村 元伸	豊崎 哲也	田中 泰弘	滝口 裕一	鈴木 俊英	平井真紀子	今田 進	岸 幹夫	
窪田 徳幸	北崎 等	菊野 薫	岡田 朝志	石島 秀紀	有田 洋右	阿部 恭久	昭60	渡邊 和義	山内 直人	持田 晃	光永伸一郎	星野 育男	平井 伸治	中川 宏治	田中 尚武	高梨 一紀	下山 恵美	桑原 聡	小野崎郁史	岡本 弦	伊藤 雅子	磯野 史朗	赤倉功一郎	昭59	横内 敬二	山崎 正志	宮副 一郎	西村 元伸	豊崎 哲也	田中 泰弘	滝口 裕一	鈴木 俊英	平井真紀子	今田 進	岸 幹夫		
興村 義孝	木元 憲一	北川 憲一	佐藤 典子	井上 雅子	五十嵐裕章	安蒜 聡		吉田 正美	守矢 秀幸	村井 尚之	松原 久裕	藤本 肇	西島 由美	中澤 美成	高谷 徹	芹澤 寛	新藤 晴彦	佐藤 博史	木元 浩之	菊地 浩之	加藤 直也	伊豆 敦子	市川 智彦	伊豆 敦子	赤倉功一郎	昭61	横内 敬二	山崎 正志	宮副 一郎	西村 元伸	豊崎 哲也	田中 泰弘	滝口 裕一	鈴木 俊英	平井真紀子	今田 進	岸 幹夫
小山 秀彦	加藤 大介	大曾根義輝	坂本 明美	押田 正規	秋元 英里	青江 知彦	昭62	渡邊 啓治	村松 俊範	三浦 信之	古谷 雄三	萩原 雅司	西村 美樹	中澤 亨	高谷 美成	芹澤 寛	新藤 晴彦	佐藤 博史	木元 浩之	菊地 浩之	加藤 直也	伊豆 敦子	市川 智彦	伊豆 敦子	赤倉功一郎	昭61	横内 敬二	山崎 正志	宮副 一郎	西村 元伸	豊崎 哲也	田中 泰弘	滝口 裕一	鈴木 俊英	平井真紀子	今田 進	岸 幹夫
吳 青洋	熊谷 匡也	朝比奈真由美	江畑 龍樹	大賀 優	飯嶋 義浩	青柳 正彦		結城 崇夫	村上 康二	松永 保	林 哲明	西脇 哲二	長門 隆子	寺内 昌毅	園田 知子	須藤 貴志	沢田 貴志	櫻本 直弘	木村 直弘	菊地 浩之	加藤 直也	伊豆 敦子	市川 智彦	伊豆 敦子	赤倉功一郎	昭61	横内 敬二	山崎 正志	宮副 一郎	西村 元伸	豊崎 哲也	田中 泰弘	滝口 裕一	鈴木 俊英	平井真紀子	今田 進	岸 幹夫

高綱 陽子 山中三千代	渡部 美博	脳神経外科学 石川 徹 永野 修	遺伝子生化学 芦野 洋美 岩瀬 克郎	腫瘍病理学 石井源一郎 北川 元生	張ヶ谷健一 古木 新	泌尿器科学 三方 一澤	石引 雄二 大隅 信幸	梶本 伸一 茂田 安弘	鈴木 文雄 富岡 進	角谷 秀典 真鍋 溥	病原分子制御学 野田 公俊	薬理学 井上 優 門田 健	中谷 晴昭	感染生体防御学 野呂瀬一美 青才 文江	守 正英	分子生体制御学 木村 定雄	細胞治療内科学 池上 智康 風戸 豊	小林 淳二 齋藤 康	清水 公子	臓器制御外科学 小林 賢二 鈴木 啓之	皮膚科学 黒田 啓 伊藤 文子	佐藤 千鶴 松本 英夫	分子病態解析学 米満 博	形態形成学 年森 清隆 豊田二美枝				
外山 芳郎 森山 行雄	齊藤哲一郎 齋藤 勇夫	動物病態学 伊勢川直久 伊藤 勇夫	生殖機能病態学 小野寺 勉 葛田 憲道	小野 章弘 生永真紀夫	芳野 春生	遺伝子制御学 齊藤 隆 中島 裕史	宮武昌一郎 近藤 正大	分化制御学 内田 昭夫	免疫発生学 中山 俊憲	小児病態学 阿部 博紀 花城恵美子	阿部 博紀 忍足美代子	太田 節雄 川上 武子	金澤 正樹 多田 裕司	上林 直子 渡辺 福	露崎 俊明 篠原 寛休	整形外科学 小野崎 晃 篠原 寛休	鈴木 弘祐 武内 重樹	田波 秀文 土屋 恵一	渡邊英一郎 鎌田慶市郎	岡本 美孝 小関 洋男	魚谷 秀夫 寺田 修久	橋 昌孝 三橋 麗子	山越 隆行 寺田 修久	腫瘍内科学 足立 公代 内山 幸信	宇野沢隆夫 奥田 桂子	越後貫道子 川島柳太郎	久原 厚生 小林千鶴子	佐久間 淳 及川 貞

新ゐのほな同窓会館設立事業会募金状況報告書

平成25年10月31日現在

寄付者	千葉大学基金		ゐのほな同窓会寄付金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	152	51,909,000	16	3,440,000	168	55,349,000
教職員 (元職員も含む)	209	25,294,000	121	4,190,861	330	29,484,861
同窓会会員	1801	128,599,000	1086	43,236,217	2887	171,835,217
後援会会員	94	5,483,000	54	3,775,000	148	9,258,000
合計	2256	211,285,000	1277	54,642,078	3533	265,927,078

須田 恵
寺田 洋臣
日暮 裕
米満 裕
精神医学
山下 忠文
放射線医学
荒居 龍雄
遠山 富也
呼吸器病態外科学
恒元 博
細胞分子医学
岩間 厚志
循環病態医科学

多田 式江
馬場 勇次
矢沢 孝文
伊藤 俊夫
宮内 郁枝
杉林 昭男
江原 和枝
小室 一成
元山 妙子
諸岡 信裕
鶴澤 一弘
大木 保秀
小野 可苗
工藤 逸郎
坂本 洋右
椎葉 正史
高橋美恵子
森川 裕一
横江 秀隆

伊賀 浩
久保田 亨
佐久間洋一
海宝 雄人
菅原 裕司
43クラス会
さあゐのほな同窓会
七葉会(専25)
五窓会(専23)
八千会代表大沢弘和(専26)
葉々会
昭和61年卒同窓会
矢作会代表永野俊雄(昭30)
西千葉医師の会
北田光一教授退官記念事業会
千葉大学医学部脳神経外科学教室
もぐら会
ゐのほな37会
千葉大学医学部平成4年の会
昭和53年卒同期会

先端和漢
大森 栄
北田 光一

平成27年版名簿発行のお知らせ

このたび、平成27年版同窓会名簿を発行する運びとなりました。
同窓生の皆様には、名簿掲載内容の確認はがきや名簿購入の案内状を送して作業を進めてまいりますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

- 名簿発行日：平成26年10月下旬
- 体 裁：変型A4判(約520頁)
- 名簿価格：3,000円

名簿作成委託先

このたびの名簿作成は、正式な同窓会事業として株式会社サラト
(兵庫県姫路市)に委託しております。
株式会社サラトのホームページ <http://www.salat.co.jp>

大日本住友製薬

錠200mg新発売

長時間作用型 ARB

低価格優待

50mg
100mg
200mg

商品名 イルベサルタン錠 AVAPRO

処方せん医薬品 (注：一錠毎の処方せんにより服用する。)

製薬販売元(貴料請求先)
大日本住友製薬株式会社
〒541-0045 大阪市中央区大船町 2-8-8

TEL 0120-034-389

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

2013.6作成

新ゐのほな同窓会館設立事業について

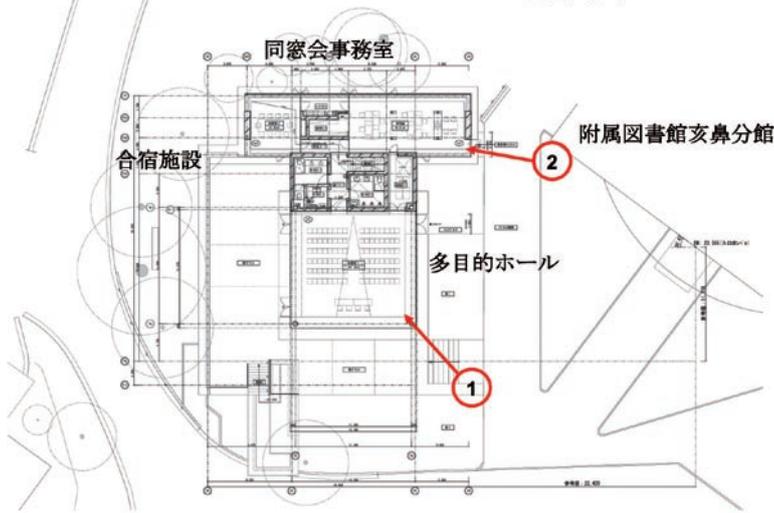
建物・設備等整備委員会委員長

田邊 政裕

新ゐのほな同窓会館の建設事業は、2013年1月から工事がスタートし、現在、鉄骨の支柱が組み上がり、その概容を周囲からも見る事ができるようになりました(写真)。工事の進行も予定出来高に急ピッチでキャッチ・アップしており、12月末には竣工予定と

なっております。9月末の段階でご寄附いただいた建設資金が2億1千万円に達しました。ご寄附いただいた皆様には厚く御礼申し上げます。新ゐのほな同窓会館の完成へ向けてあと一歩となりました。今後とも皆様のご支援、ご協力をいただければ誠に幸甚です。

撮影位置



①



②

一三五周年記念事業「新ゐのほな同窓会館」完成記念式典開催のお知らせ

日時 平成二十六年二月九日(日)午後一時三十分
場所 新ゐのほな同窓会館一階多目的ホール
(千葉大学亥鼻キャンパス附属図書館前)

記念式典

記念講演会

松木 明知 名誉教授

弘前大学大学院医学研究科麻酔科学

演題 「獅膽鷹目行以女手」の

日本への伝播とその漢訳者

記念パーティ

ご出席頂ける場合は、ご一報いただけますと幸甚です
(連絡先：千葉大学ゐのほな同窓会事務局)



糖尿病ケアの世界的なリーディングカンパニー

ノボ ノルディスクは、デンマークに本社を置き、世界75カ国に約34,700人以上の従業員を擁し180カ国以上で製品を販売する世界的なヘルスケア企業です。糖尿病ケアにおいては、「Changing Diabetes® - 糖尿病を変える」を掲げ、糖尿病克服に向けての研究開発はもちろんのこと、さまざまな分野で社会活動を行っています。

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
電話 (03)6266-1000(代表) FAX (03)6266-1800 www.novonordisk.co.jp



ゐのほな同窓会賞受賞候補者募集要項

第十九回(二〇一四年度)ゐのほな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

一、受賞対象者

① 社会貢献賞 本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。

② 功労賞

医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学ゐのほな同窓会に多大の貢献をした者。

二、表彰

① 社会貢献賞 (三件以内) 盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。

② 功労賞

(一件以内) 盾および賞金十万円を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇一三年十二月一日から二〇一四年一月三十一日までに申請して下さい。

四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

審査結果は二〇一四年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、ゐのほな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内、ゐのほな同窓会事務局
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

おくやみ

- 佐藤 学而(日本大専・昭20) 大久保春男(昭28)
- 黒野 由治(慈恵医大・昭21) 清水 惟義(昭28)
- 千田喜久雄(昭22) 片山 喬(昭30)
- 江畑 敏子(帝國女子医専昭22) 小林 健次(昭30)
- 吉田 作(昭23) 岩瀬 亀夫(昭32)
- 松岡 淳夫(専23) 佐藤 通(昭35)
- 鈴木 東洋(専23) 小越 章平(昭36)
- 方波見重兵衛(専24) 伊藤 俊夫(金沢大・昭36)
- 古屋 義人(専24) 中山 博(昭37)
- 藤岡 玄治(専24) 安倍己紀男(昭54)
- 石坂 修(専25) 長谷川真也(香川医大・平3)
- 竹内 秀夫(昭25) 植山 太郎(平12)
- 有吉 徹(岩手大・昭27)

勝山寮(委員)OBの皆様

現在、医学部に建設中の新しいゐのほな同窓会館において、勝山寮委員名簿の出版を記念して旧勝山寮委員のOB会を左記の要領で開催します。ご参加いただける方は、平成26年1月17日(金)までに千葉大学医学部ゐのほな同窓会まで参加する旨をご連絡下さい(電話、FAX、eメールいずれでも結構です)。

代表世話人・青木謹(昭36)、田邊政裕(昭49)、五十嵐辰男(昭52)、廣島健三(昭54)、龍野一郎(昭57)
連絡先：千葉大学医学部ゐのほな同窓会
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
電話 043-2002-3750
FAX 043-2002-3753
eメール igaku-doso@chiba-u.jp

日時：平成26年3月16日(日)
午後1時30分(受付開始) 午後1時から
場所：新ゐのほな同窓会館1階多目的ホール
会費：1万円
時間：午後1時30分～3時00分

編集後記

全国のゐのほな同窓会の皆様におかれましては日々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平成26年となり、新年のご挨拶とともに、第165号同窓会報をお送り申し上げます。本年、ゐのほな同窓会として特筆すべき大きな話題は、新しい同窓会館の完成であります。会員の皆様のご尽力に篤く御礼申し上げます。本号におきましても複数の記事が掲載されており、また、同期会や同門会などでお使いいただけるよう準備が進んでいると伺っております。実際にお使いいただき、ご感想や前向きなご意見を同窓会事務局までお知らせ頂けると幸いです。

私は現在、東邦大学医学部病院病理学講座に勤務しております。私立大学であり同窓会のあり方につきましては、国立大学法人とは根本的に異なるのですが、いわゆる「母校愛」に関しては千葉

大学との温度差を感じます。大学医学部に籍を置く者は「教育・研究・診療」の三本柱についてまんべんなく活動していく必要がありますが、人間一人では出来ることは限られており、同窓会員の同志とともに活動性を上げていくことが求められていると感じております。同窓会会員の先生方におかれましても、心のどこかにゐのほなで学んだ記憶を残しておいて頂ければ幸いです。

四月から徳久剛史先生が千葉大学の学長に就任されるとのニュースが入って参りました。ゐのほな同窓会の会員として祝意を示すとともに、母校のために学外の人間として何が出来ののか考えて行動していきたいと存じます。

本年がゐのほな同窓会の先生方やご家族にとってよい一年になりますよう祈念しております。

栃木 直文(平12)



編集委員 写真左から
前列：堀部和夫(昭32)、青木謹(昭36)、三木隆司(昭63)、伊藤晴夫(昭39)、鈴木信夫(昭47)
後列：杉田克生(昭54)、白澤浩(昭57)、廣島健三(昭54)、織田成人(昭53) 吉野一郎(九州大・昭62)